

# 平成 29 年度 事業実績報告書



( 平成 29 年度実施状況 )

平成 30 年 11 月  
公益財団法人 岩手県漁業担い手育成基金

# 目 次

○ 漁業担い手育成基金の概要	1
1 組 織	2
2 平成 29 年度事業実績総括表	3
3 平成 29 年度事業実施状況	4
4 実施結果報告	6
1 漁業担い手確保対策事業	
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	7
(2) 水産高校等連携育成事業	13
(3) 漁業志向青年等体験学習事業	26
3 青年等漁業者資質向上活動支援事業	
(1) 研究グループ等活動事業	
ア 研究実践活動	27
イ 研修活動	36
(2) 青年等交流活動事業	
ア 情報交換会の開催等	42
イ 地区活動実績発表大会	48
(3) 地域リーダー研修事業（漁業士活動等）	50
5 漁業復興担い手確保支援事業・事務事業実績	52
6 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務規程	54
7 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則	56

## ○ 漁業担い手育成基金の概要

### 1 目的

本基金は、漁業生産を担う漁業者の確保及び育成を図るため、漁業を志向する青年等の就業促進及び青少年等の漁業に対する理解の向上や青年等漁業者の漁業経営及び漁家生活等の改善向上を図るための自主的活動等に対して支援を行い、もって本県漁業・漁村の健全な発展に寄与することを目的とする。

### 2 事業の内容

前記の目的を達成するため、次の事業を行います。

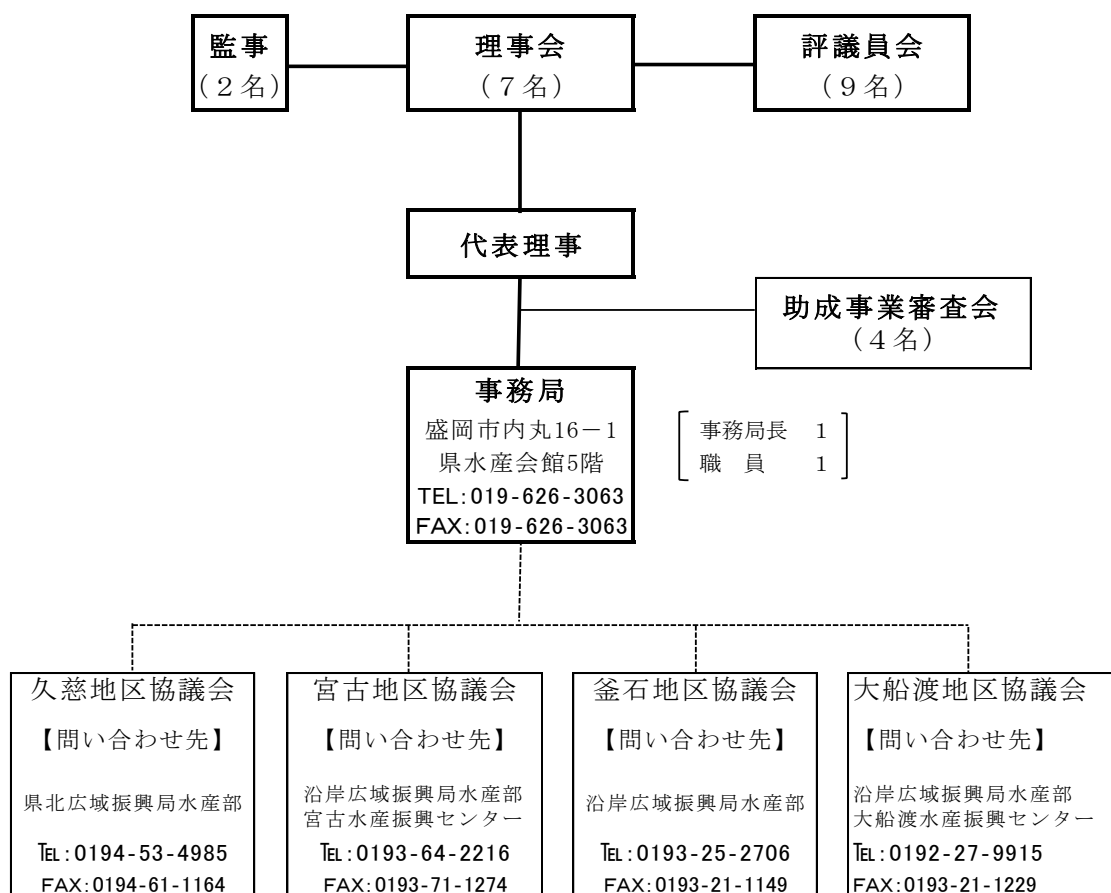
- (1) 漁業担い手の確保に関する支援事業
- (2) 新規漁業就業者等の育成に関する支援事業
- (3) 青年等漁業者の経営等の改善向上に関する組織活動支援事業
- (4) 地区における漁業担い手対策を総合的に推進するための協議会活動支援事業
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 3 基金の概要

- (1) 名 称 公益財団法人 岩手県漁業担い手育成基金
- (2) 設立年月日 平成3年10月1日（平成24年4月1日から公益法人に移行）
- (3) 所在地 盛岡市内丸16番1号（岩手県水産会館内）
- (4) 設立根拠法 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第4条
- (5) 代表者 岩手県漁業協同組合連合会代表理事会長 大井誠治
- (6) 基本財産 510,000千円
- (7) 出捐状況

区 分	出捐総額(百万円)	比率(%)	摘 要
県	250	49	
市 町 村	75	15	沿岸12市町村
漁業団体	175	34	27漁協、連合会等
そ の 他	10	2	海づくり大会寄付金
計	510	100	

# 1 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金の組織



## 役員及び評議員 (H30.3.31現在)

### 役員

代表理事	大井誠治	県漁連会長
理事	伊藤克宏	県農林水産部技監
理事	藤島純悦	県漁業共済組合専務
理事	工藤大輔	県議会議員
理事	横山英信	岩手大学部教授
理事	小野寺恵	メグミプランニング代表
理事	五日市周三	県内水面漁連専務
監事	佐藤 修	県町村会事務局長
監事	盛合久雄	県信漁連常勤監事

### 評議員

評議員	岩脇洋一	県信漁連会長
評議員	門坂繁樹	JF共水連岩手支店長
評議員	佐藤信逸	山田町長
評議員	吹切 守	岩手県漁業士会長
評議員	平子昌彦	Jf漁青連副会長
評議員	崎山恵美子	県漁協女性部連絡協議会副会長
評議員	金澤広利	県産業教育振興会事務局長
評議員	五日市知香	パイロットフィッシュ代表
評議員	大森正明	㈱エコニクス技術顧問

## 平成29年度漁業担い手育成基金助成事業実績総括表

事業区分	実施主体	件数	決算額(円)	備考
<b>1 漁業担い手確保対策事業</b>		<b>16</b>	<b>866,985</b>	
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	漁業協同組合、水産高校	13	649,485	
(2) 水産高校等連携育成事業	水産高校	2	150,000	
(3) 漁業志向青年等体験学習事業		1	67,500	
<b>2 漁業担い手育成対策事業</b>		<b>1</b>	<b>296,000</b>	
(1) 新規漁業就業者交流事業		0	0	
(2) 新規漁業就業者技術研修事業	漁船漁業経営体	1	296,000	
(3) OJT研修支援事業		0	0	
<b>3 青年等漁業者組織活動支援事業</b>		<b>14</b>	<b>2,129,129</b>	
(1) 研究グループ等活動事業		8	1,506,513	
① 研究実践活動	漁業青年部・研究グループ	5	966,043	
② 研修活動	漁協青年部	3	540,470	
③ 資格取得活動		0	0	
(2) 青年等交流活動促進事業		5	537,210	
① 情報交換等活動・交流活動	漁業士会、漁協女性部連絡協議会	4	467,210	
② 地区活動実績発表大会		1	70,000	
(3) 地域リーダー研修事業(漁業士会活動等)	漁業士会本部、支部	1	85,406	
<b>4 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>合 計</b>		<b>31</b>	<b>3,292,114</b>	

### 3 平成 29 年度事業実施状況

#### 1 概況

東日本大震災から 7 年が経過し、本県漁業の復旧状況は、漁業生産の基盤となる漁船や養殖施設はほぼ復旧している状況にあり、また、生産面では、ワカメ・コンブの海藻類の養殖に加え、貝類養殖についても出荷は震災前に戻りつつあります。

また、背後施設等復旧については、用地造成が完了し、復興住宅の建設、住宅の高台移転等進んできています。

生産体制については、「がんばる養殖」が終了し、グループ生産から個人生産への移行が進んでいます。今後は、高齢者の養殖からの離脱による生産量の減少が心配されるところです。個人経営体数については、平成 25 年度(第 13 次)漁業センサスによると前回の 5,204 に比べ 3,278 と 63% と大幅に減少しており、担い手の確保が急務となっています。

このため、平成 29 年度の事業運営におきましては、震災前のように担い手の確保、育成、若青年漁業者の活動支援を中心に助成事業を展開して参りましたが、一部で中止した事業等もあり、計画を下回った実績となりました。

国の漁業復興担い手確保支援事業につきましては、本年度が最終となり、研修実績に基づく精算や資格等習得に対する支援について全国漁業就業者確保育成センターからの事務委託を受け事務指導を実施しました。最終的には新規就業者確保支援事業については、165 名が研修を受け、資格習得支援事業については、延べ 814 名が活用し小型船舶操縦士等の資格の取得をするなど、本県漁業担い手の維持・確保に努めました。

#### 2 事業実施状況

##### (1) 漁業担い手確保対策事業

###### ア 小中学生漁業体験・学習事業

事業内容	対象団体数	延回数	延日数	参加人数	助成額 (円)
1 漁業体験学習等	13	23	29	536	549,485
2 水産高校等 1 日体験入学	2	2	2	157	100,000

###### イ 水産高校等連携育成事業

事業内容	対象団体数	実施期間	延日数	参加人数	助成額 (円)
海洋環境調査、水産加工品開発	2	周年	150	26	150,000

###### ウ 漁業志向青年等体験学習事業

事業内容	実施団体数	実施日数	参加人数	事業費 (円)	助成額 (円)
体験漁業の実施	1	2	2	67,500	67,500

##### (2) 漁業担い手育成対策事業

###### ア 新規漁業就業者技術研修事業

指導者数	研修生数	研修内容	延研修日数	事業費 (円)	助成額 (円)
1	1	まぐろ延縄、籠漁業	37	296,000	296,000

##### (3) 青年等漁業者資質向上活動支援事業

ア 研究グループ等活動事業

(ア) 研究実践活動

地区	研究課題等	実施団体	実施期間	事業費 (円)	助成額 (円)
大船渡	CSA と連携した養殖ホ タテの販路拡大	綾里漁協小石浜青年 部	11月21日 2月8日	201,120	200,000
大船渡	養殖用マガキ種苗の 地場採苗試験	門之浜養殖組合	6～11月	288,468	288,468
宮古	未利用資源を使用し た加工品の開発、商品 化	小本浜漁協女性部生 活改善グループ	6月～10 月	93,759	93,759
久慈	アワビ資源有効活用 調査	玉川浜漁業研究会	10月～2 月	53,816	53,816
久慈	マボヤの採苗養殖試 験	大尻漁業研究会	7月～3月	336,245	330,000

(イ) 研修活動

地区	研修内容	実施団体	研修期間	事業費 (円)	助成額 (円)
釜石	他県の付加価値向 上技術や出荷方法 の調査	釜石湾漁協青年部	9月	164,089	164,000
宮古	魚介類の加工施設 及び販売施設の先 進地視察	小本浜漁協女性部 生活改善グループ	2月	126,470	126,470
久慈	シングルシードカ キ養殖先進地視察	野田漁友会	6月	327,585	250,000

イ 青年等交流活動事業

(ア) 情報交換会の開催等

地区	活動内容	実施団体	実施時期	参加人数	事業費 (円)	助成額 (円)
全県	漁業士連絡協議会及 び全国青年女性漁業 者交流大会	岩手県漁業 士会	3月	3	154,240	130,240
全県	全国青年女性漁業者 交流大会	岩手県漁協 女性部連絡 協議会	3月	1	85,250	74,710
大船渡	漁業就業者フェアへ の参加	岩手県漁業 士会大船渡	7月 (2回)	1	62,260	62,260

宮古	未婚漁業者等交流会	宮古市漁業 就業者育成 協議会	2月	12	201,133	200,000
----	-----------	-----------------------	----	----	---------	---------

(イ) 地区活動研究実績発表大会

地区	活動内容	実施主体	実施時期	参加人数	事業費	助成額
久慈	九戸地区漁村青年活 動実績発表大会	J F 漁青連 九戸支部	6月	52名	77,332	70,000

ウ 地域リーダー研修事業（漁業士活動等）

地区	活動内容	実施団体	実施時期	延べ 参加人数	事業費 (円)	助成額 (円)
全県	漁業士会総会後 の研修会	岩手県漁業 士会	6月	72	289,406	85,406

(4) 漁業復興担い手確保支援事業・事務受託（漁業担い手対策推進事業）

東日本大震災の被害に伴う水産業従事者の離職を予防するため、岩手県内において漁業復興担い手確保支援事業の一次受入機関への精算書の作成指導を行った。

ア 制度利用者実績

平成23年度から平成29年度まで本制度を利用した研修生は165人、資格習得受講者は、延814人となっている。本年度は、新規開始の受け付けは終了していることから研修2年目の精算を残すのみとなった。精算事務指導及び研修修了者等の状況把握に努め、随時、全国就業者確保・育成センターに報告した。

事業区分	一次受入 機関数	二次受入 機関数	研修生数	精算実績
前年度から継続	17	35	40	
新規就業者（漁家子弟）	11	24	25	
新規就業者（未経験）	10	12	15	
資格習得支援	12	—	延125	
計	延29	35	延165	



## 4 実施結果報告

### 1 (1) 小中学生漁業体験・学習事業





実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
大船渡市漁協  	総合的な学習の時間「産土タイム」わかめ種巻き作業を通じて、地域産業の大切さ及び漁業後継者育成の環境整備を目指すものである。	末崎地先 海上	11/22	中学生 33名  その他 5名
漁業士会大船渡支部 ホタテ漁業体験  新巻鮭製作体験 	管内の小中学校を対象に地域の漁業について体験を通じて水産業により一層の理解を深めてもらうことを目的とする。 ①ホタテ漁業体験 地元の産業であるホタテガイ養殖に関する知識を座学で学んだ後、ホタテ耳吊作業等を体験した。 ②新巻鮭製作体験 荒巻サケづくりを通じて地域資源であるサケや漁業の理解を深めた。	① 大船渡市 根白漁港  ② 広田湾漁 協さけま す捕獲採 卵場	①6/2,6/9	① 中学生 38名  ② 小学生 13名
高田高等学校 海洋科学コース  	「岩手県立高田高等学校1日体験入学」 本校の教育内容を中学生に理解してもらい、中高連携した進路指導をおこなうことを目的に実施する。 ① 海洋科学コース C型艇による操船及びロープワーク（大船渡湾内） ② 食品科学コース 揚げかまぼこ製造及びアミエビパン製造（本校食品実習場）	① 大船渡湾 内  ② 本校施設	8/1	中学生 38名

<p>食品科学コース</p>  				
<p>綾里漁業協同組合</p>  <p>清水輪定置網起こし</p>  <p>縄結び実技</p>  <p>鮭新巻作り作業</p>	<p>漁業に対する理解と関心を高めるため、綾里中学校1・2年生を対象に漁業体験学習を実施した。</p> <p>① 洋上見学・定置の網起こし体験・縄結び実技 ② 新巻づくり体験</p>	<p>① 綾里小石浜・清水輪定置漁場 ② 綾里漁協荷捌施設</p>	<p>① 11/2 ② 11/7・11/13</p>	<p>① 中学生 20名 その他 7名 計 27名 ① 中学生 25名 その他 12名 計 37名</p>
<p>釜石湾漁業協同組合</p> 	<p>釜石地域の水産業への理解と憧れを因るため、釜石市立平田小学校5年生27名を対象に、漁業体験学習を実施した。</p> <p>① サケふ化放流学習 サケふ化放流事業及び定置網漁業等の説明（講義：漁</p>	<p>①～③ 平田漁港</p>	<p>① 12/4 ② 12/4 ③ 12/8</p>	<p>① 小学生 28名 その他 8名 計 36名 ② 小学生</p>

	<p>協職員等)</p> <p>② サケ加工実習 サケの塩蔵加工の実施（えら、内臓除去、洗浄、塩蔵）</p> <p>③ サケ加工実習 サケの塩蔵加工の実施（洗浄、乾燥）</p>			<p>28名 その他 9名 計 37名 ② 小学生 28名 その他 8名 計 36名</p>
<p>新おおつち漁業協同組合</p>	<p>漁業体験をとおして、地域水産業への興味・理解を図る。 吉里吉里学園 中学部 平成 29 年度ワカメ学習</p> <p>① 養殖桁へのわかめ種苗の巻込み作業 ② わかめ養殖勉強会 ③ 刈取り及びボイル塩蔵作業</p>	<p>① 船越湾 ワカメ養殖漁場 ② 吉里吉里学園 中部 ③ 吉里吉里漁港</p>	<p>① 11/14 ② 2/20 ③ 2/24</p>	<p>① 中学生 26名 その他 8名 ② 中学生 26名 その他 5名 ③ 中学生 26名 その他 16名</p>
<p>三陸やまだ漁業協同組合 「ほたて叩き」</p>  <p>「カキ剥き」</p> 	<p>水産業に対する理解と関心を高めるために管内の小学生（大浦小学校 1～6 年生 27 名）を対象に体験学習（ほたて叩き・かき剥き体験）を実施した。</p> <p>① 体験学習「ほたて叩き」 ホタテ貝の付着物除去作業</p> <p>② 体験学習「カキ剥き」 マガキのカキ剥き作業</p>	<p>① 大浦荷捌き施設 ② 大浦荷捌き施設</p>	<p>① 6/5 ② 2/22</p>	<p>① 大浦小 生徒 27 名 ② 大浦小 生徒 23 名</p>
<p>宮古水産高等学校 海翔体験航海</p>	<p>「平成 29 年度中学生一日体験入学」 下閉伊管内を中心とした、中</p>	<p>岩手県立 宮古水産 高等学校</p>	<p>7/28</p>	<p>中学生 135 名</p>

 <p>ウニ発生実験・解剖</p>  <p>水産食品加工実習</p> 	<p>学3年生を対象とし、校内外の施設見学及び各科の実習室等において特色を活かした体験的学習を実施する。この体験をとおりして進路選択の参考にしてもらうとともに、水産業の重要性を伝えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋技術科…海翔体験航海・ウニ発生実験・解剖</li> <li>・食品家政科…水産食品加工実習・手芸制作実習</li> <li>・食物科…調理体験等</li> </ul>			
<p>重茂漁業協同組合 サケふ化場見学</p>  <p>河川への放流</p>  <p>新巻鮭づくり体験</p> 	<p>重茂小学校児童を対象とした次の体験活動を通して海の担い手の育成を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 サケ稚魚放流、ふ化場見学、サケ定置網、新巻づくりの体験学習を通して、水産業についての理解を深め、地域の重要産業である水産業の後継者の育成に資する。</li> <li>2 海を中心とした郷土の自然や環境とそこに住む生物との結びつきに理解を深め、郷土の自然を愛し、環境を守ろうとする意識を育てる。</li> </ol> <p>①サケふ化場見学 ②新巻鮭づくり体験</p>	<p>① 重茂川、 鮭ふ化場、重茂小学校 ② 重茂漁港、漁港 関連施設 重茂小学校体育館 脇</p>	<p>① 4/12 12/13 ② 11/30 12/7</p>	<p>① 小学生 17名 その他 1名 ② 小学生 14名 その他 24名</p>
<p>小本浜漁業協同組合</p>	<p>町内中学校（小本・安家・釜津田）の生徒に新巻鮭づくり体験を通し、地元の漁業への理解と親しみを育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新巻鮭づくり体験</li> </ol>	<p>鮭川留作 業場</p>	<p>平成 29 年 11 月 30 日</p>	<p>中学生 54名 その他 16名</p>

	<p>小本・安家・釜津田中学校の生徒を対象に新巻鮭づくり体験を行なった。</p>			<p>計 70名</p>	
	<p>新巻作り体験</p>	<p>宮古管内小中学生を対象に養殖作業等の体験学習を実施し、地元漁業への理解と親しみの深化を図った。</p>	<p>① 5/17、 11/21  ② 5/26  ③ 6/26  ④ 7/5</p>		
	<p>漁業士会宮古支部</p>	<p>①カキ剥き体験等 ・カキ剥き体験 ・宮古湾の漁場環境等の講話 ・試食会 ・宮古湾の漁場環境等の講話 ②ホタテガイ養殖学習 ・ホタテガイ養殖の年間作業工程等 ・出荷前処理体験 ③磯体験学習 ・磯の生物観察 ④海の学習会 ・網起こし ・プランクトンの採取 ・プランクトンの顕微鏡観察</p>			
	<p>種市南漁業協同組合</p>	<p>「宿戸地区 少年水産教室」 宿戸地区中学1年生(約 21 人)を対象に、地区の特産物であるウニ採捕および加工体験の体験学習を通じ、地域漁業者との交流を深め次代の漁業担い手育成を図った。</p>	<p>洋野町宿戸</p>	<p>7/23～25</p>	<p>中学生 21名</p>
	<p>ウニ剥き</p>	<p>① ウニ採り体験 ② 塩ウニづくり体験</p>			

 <p>塩ウニ瓶詰め</p>	<p>③ 塩ウニ瓶詰め作業体験</p>			
<p>久慈市漁業協同組合</p>  <p>屋形定置網起こし見学</p>   <p>船上磯観察</p>	<p>「久喜地区少年水産教室」 久喜地区 4～6 年生を対象に体験活動により漁業に対する理解と関心を高め、漁業担い手の維持確保を図るため漁業体験学習を実施した。</p> <p>① 漁業体験学習 屋形定置網起こし見学、船上磯観察、船漕ぎ、ウニ採り、ウニ剥き体験</p> <p>② ・鮭いくらづくり ・鮭新巻づくり 鮭いくらづくり、鮭新巻づくり</p> <p>③ ・鮭新巻づくり 鮭新巻塩洗浄、鮭新巻干し</p>	<p>① 久喜港、荷捌き施設、屋形定置漁場</p> <p>② 久喜港、荷捌き施設、</p> <p>③ 久喜小学校</p>	<p>① 7/18 ② 11/17 ③ 11/24</p>	<p>① 小学生 34名 その他 57名 計 91名</p> <p>② 小学生 10名 その他 23名 計 33名</p> <p>③ 小学生 10名 その他 14名 計 24名</p>

(2) 水産高校等連携育成事業

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
高田高等学校	<p>「平成29年度 水産クラブ研究活動」 水産クラブ研究活動を通じて、水産・海洋等が抱える問題や、水産・海洋に関心を持ちながら、自らテーマを設定し、そのテーマに沿って解決出来る能力を育成する。</p> <p>① 【広田湾内に生息する魚の生態と環境の状態調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大陽漁港における魚の採取と環境調査</li> <li>・大陽漁港内に生息する魚の胃内容物の観察</li> </ul> <p>② 【新商品の試作・開発】 特産品であるエゾイシカゲガイについて、地産地消、また更なる消費拡大目指して新商品の開発に取り組んだ。</p>	<p>① 広田湾 大陽漁港</p> <p>② 本校食品実習場</p>	<p>①～② 5月～12月</p>	<p>① 8名 ② 7名</p>

平成 29 年度 海洋システム科海洋科学コース

3 年生研究報告

広田の海の見守隊



岩手県立高田高校海洋システム科海洋科学コース



## 1. はじめに

岩手県の南側に位置する広田湾では養殖業が盛んに行われています。特に、わかめ、ホタテやカキ、エゾイシカケガイの養殖では全国屈指の生産量を誇るなど、広田湾は岩手県の水産業を支える豊かな海として知られています。

最近、そんな広田湾から魚が消えたという話をよく聞くようになりました。魚が消えた原因について、広田湾を利用する漁業者や釣り人は、東日本大震災や地球温暖化の影響で環境が大きく変化したためだと考えているようです。しかし、実際のところ、広田湾に「どれぐらいの魚が生息しているのか」ということは誰も把握できていません。

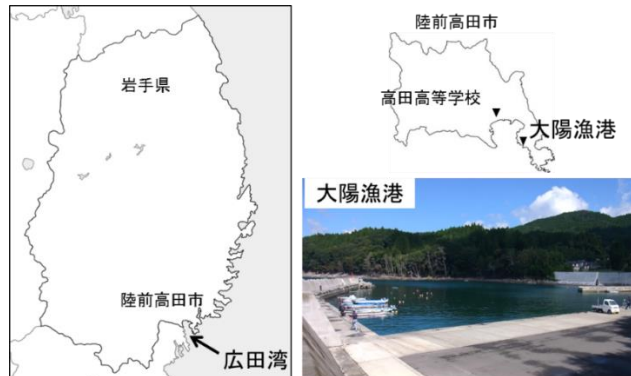
自然界において、生態系は生息する生物の食物連鎖と環境とが関わり合って形作られています。乱獲や環境破壊などにより生息する生物と環境のバランスが崩れれば、生態系は崩壊してしまいます。一般的に、沿岸域に生息する魚の資源量は漁業により捕獲された魚の種類や量など生態に関わる情報に基づいて評価されます。広田湾では養殖業が盛んな一方で、漁業があまり行われていないため、生息する魚の資源状況が把握できていません。広田湾で水産業を持続的に行うためには、生息する魚の生態や環境の状態を把握しておく必要があります。

そこで、私たちは広田湾の生態系の状態を調べるために、湾内に生息する魚の生態と環境の状態を調査しました。

## 2. 材料と方法

### 実験 1. 大陽漁港における魚の採取と水温測定

私たちは広田湾内の大陽漁港で魚の採取と環境調査を行いました。



広田湾 大陽漁港の位置

魚の採取および環境調査は2017年の4月21、28日、5月12、19日、6月16日、7月14、21日および9月8日の計8回行いました。採取した魚は各種図鑑を用いて外部形態により分類した後、個体数を数えました。環境調査では海水の温度、塩分濃度および溶存酸素濃度の測定を行いました。水温は環境水にデジタル式スティック温度計を直接突き刺して測定しました。塩分濃度および溶存酸素濃度は、各調査日で採水した海水に専用の電極を装着した導電率計データロガを用いて測定しました。



### 実験 2. 大陽漁港内に生息する魚の胃内容物の観察

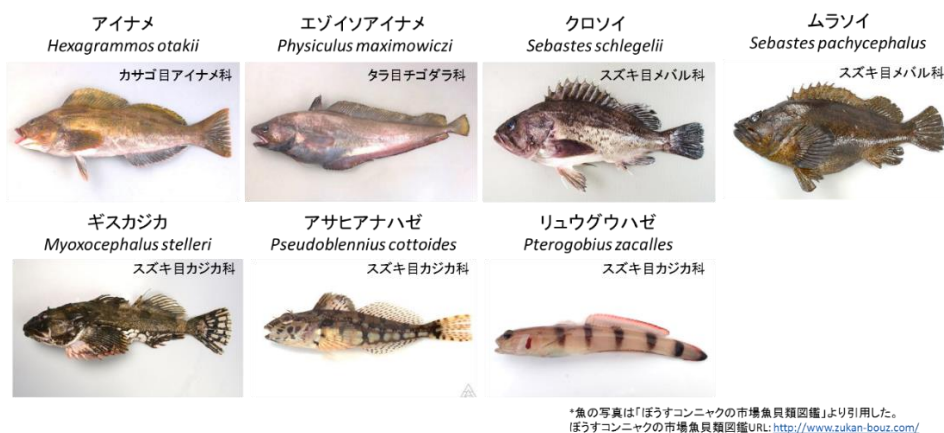
大陽漁港内に生息する魚の生態をさらに詳細に調査するために、前実験で捕獲した魚の胃の内容物を

観察しました。魚は解剖した後、胃を摘出しました。摘出した胃から内容物を取り出し、シャーレ上に広げた後、目視により内容物に含まれる餌生物を分類し、個体数を数えました。



### 3. 結果

大陽漁港内からは、アイナメ、エゾイソアイナメ、クロソイ、ムラソイ、ギスカジカ、アサヒアナハゼ、リュウグウハゼの計7種の魚が採捕されました(図1 および表1)。魚類図鑑により、これらの魚種の生息域を調べたところ、採捕された7種全ての魚が東北地方で一般的な種類であることが明らかとなりました。本研究を始める前は、地球温暖化や震災にともなう環境変化により、温暖な地方の魚種が採取されることが予想されました。しかし、今回の調査で採捕された全ての魚が東北地方で採取できる魚種であったことから、広田湾に生息する魚は環境の変化などの影響を受けていない可能性が考えられました。



\*魚の写真は「ぼうすコンニャクの市場魚貝類図鑑」より引用した。  
 ぼうすコンニャクの市場魚貝類図鑑URL: <http://www.zukan-bouz.com/>

図1. 広田湾 大陽漁港内に生息する魚の種類

表1. 広田湾 大陽漁港内に生息する魚種

目	科	種
カサゴ	アイナメ	アイナメ
タラ	チゴダラ	エゾイソアイナメ
スズキ	メバル	クロソイ
スズキ	メバル	ムラソイ
スズキ	カジカ	ギスカジカ
スズキ	カジカ	アサヒアナハゼ
スズキ	ハゼ	リュウグウハゼ

大陽漁港内で生息する7種類の魚の生態を調べるために、各調査日で採捕された魚の個体数と水温の関係を調べました(図2)。水温は4月21日に11℃を記録し、その後は7月まで上昇を続け、7月21日に最高値となる23℃を示しました。塩分濃度および溶存酸素濃度は調査期間中での顕著な変化が認められませんでした(図3)。出現魚種は、4月21日では認められなかったものの、4月28日にリュウグウハゼ、アイナメ、エゾイソアイナメなど計3種類が見られてからは徐々に増加し、5月19日には最高値となる6種類が採捕されました。その後、6月16日から7月21日まではエゾイソアイナメ1種類のみが採捕されました。採捕した魚の個体数も魚種の数の季節変化と同様に変化し、最も多く採捕されたのは5月19日でした。以上の結果から、大陽漁港内に生息する魚の種類と個体数は季節に合わせて変化し、5月19日で最大となることが明らかとなりました。

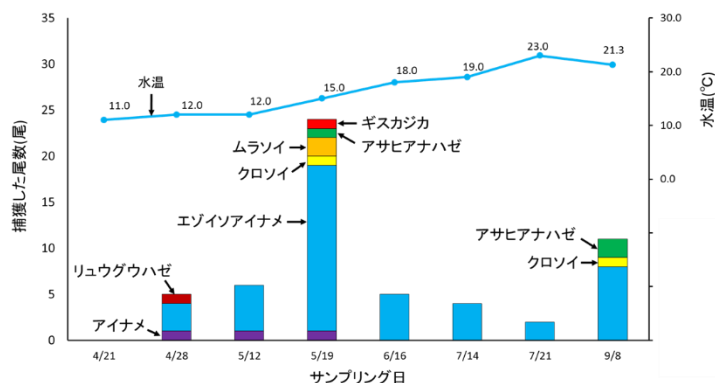


図2. 広田湾大陽漁港内の水温と出現魚種の季節変動

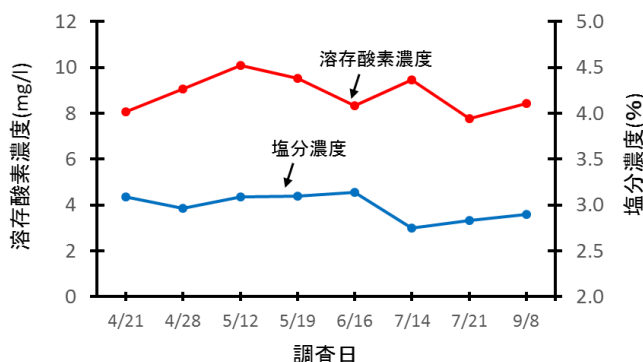


図3. 広田湾大陽漁港内の塩分濃度と溶存酸素濃度の季節変動

大陽漁港で採捕された魚の胃からは魚類、エビ類、スナホリムシ、カニ類、貝類、多毛類、海藻類など計7種類の餌生物が観察されました(図4)。さらに、魚の胃内容物から採取されたこれら餌生物の種類のを割合を算出したところ、5月12日、5月19日、6月16日に採取された魚の胃ではスナホリムシ、エビやカニなどの甲殻類が多く観察され、特に、実験1で魚の種類と数が最大となった5月19日ではスナホリムシとカニ類の割合が高くなりました(図5)。このことから、大陽漁港内で見られた魚の種類と数の季節変化は、水温変化に伴う甲殻類の数の変動により引き起こされることが明らかとなりました。



図4. 広田湾 大陽漁港内に生息する魚の餌生物

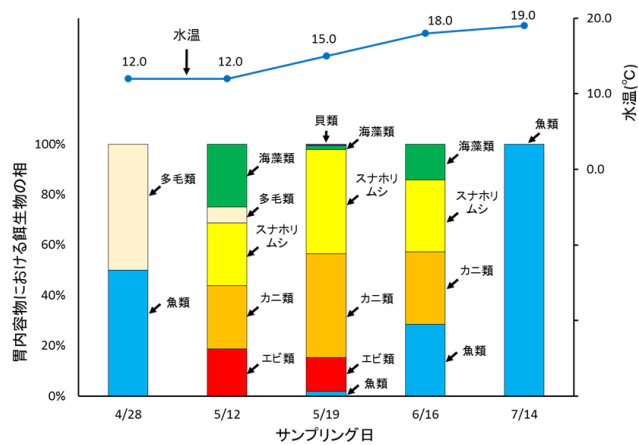


図5. 広田湾 大陽漁港内に生息する餌生物の季節変化

#### 4. まとめと展望

本研究を通じて、私たちは広田湾に東北地方で一般的な7種類の魚種が生息していることを明らかにしました。また、湾内では、スナホリムシや小型のカニなどの甲殻類の数が水温変化に合わせて変化することで、これらを餌とする魚の個体数が変動することが明らかになりました。しかし、海水の塩分濃度や溶存酸素濃度などの環境要因と生息する生物の量との関係性は認められませんでした。塩分濃度や溶存酸素濃度が魚に与える影響については、すでに飼育水槽で海洋環境を再現するなどして調査を継続しており、途中経過については12月中旬に科内で行われた最終報告会に合わせてまとめました。

今後は、同様の調査を継続的に続けていくとともに、新たに海底の底質調査を加えて、広田湾の生態系の状況をさらに詳細に調査していきたいと考えています。

# 水産業と地域の活性化を目指して！

(エゾイシカゲ貝商品化プロジェクト)

～陸前高田の **向かい風**～



岩手県立高田高等学校 海洋システム科

食品科学コース

## ◎プロローグ

岩手県最大の広さを有する陸前高田市の広田湾で、1996年、市内の漁業者である小泉豊太郎氏が築地市場でも幻の貝と言われるほど入荷量が少なかったエゾイシカゲ貝の養殖に一人挑んだ。その後、小泉氏は養殖方法等の技術確立し、養殖に取り組む仲間も少しずつ増え、2010年には35トンを出荷することができるなど、産業レベルでの養殖に成功した。しかし、これからさらに生産量を増やしていこうと考えていた矢先の2011年3月、東日本大震災が発生し、養殖施設・設備などを全て失った。再出荷は無理だろうと言われていたが、翌年仲間たちと立ち上がり、採苗・養殖を開始し、大切に2年半育てた2014年7月ついに出荷を再開することができた。(2年半育て幅5.5cm以上の貝を出荷している。)

この貝の出荷時期は7月～10月中旬で、そのほとんどが、生食用として築地市場などの関東圏に運ばれ、築地では「広田湾産エゾイシカゲ貝」としてブランド化され、高値で取引されている。しかし、産地である陸前高田市では貝の出荷時期に運がよければ寿司屋で食べることができるぐらいで、なかなか地元でも目にすることができない幻の貝となっている。

現在、陸前高田市にはサケやサンマ・イカの不漁、漁業従事者・水産加工業者の減少など強い向かい風が吹いている。そこで私たちはその向かい風に立ち向かうべく、エゾイシカゲ貝やウニを使い、出荷時期に関係なく地元でも食べることができ、さらには陸前高田市の名産品に成り得るもので水産業及び地域の活性化につながる商品を作りたいと考え研究を進めることにした。

## ◎エゾイシカゲ貝（蝦夷石蔭貝）とは？

ザルガイ科イシカゲ属の二枚貝（すしネタで有名なトリガイの仲間）

分布：茨城県以北～北海道オホーツク海、アリューシャン列島、カリフォルニア沿岸

環境：水深10～100mの砂泥地

全長：7～8cm 殻高：6cm 殻幅：4cm 肉色：薄黄色（クリーム色）

殻形：膨らみのある殻表面には50本ほどの放射状肋がある。

旬：夏（広田湾産は7～10月中旬に出荷）

特技：天敵に襲われると斧足を出して跳躍して逃げる。



エゾイシカゲガイ



現状：全国で唯一産業レベルでの養殖に成功した陸前高田市の広田湾産のものが出回るようになり認知度が増した。価格は1kg当たり3000円前後で高級すしネタとして取引されている。しかしながら生産者は現在13名と少なく、出荷量は過去最高を記録した昨年度でも59トンであり、今年度の予

定出荷量も 70 トンとまだまだ少ない。

利用：すしネタ、サシミ、焼き物、鍋、酒蒸

栄養成分：タウリンが多い。(タウリンー肝臓の機能改善、血圧降下、むくみ・動悸・息切れの改善、ダイエットなどに効果があると言われている。)

### ◎商品開発

広田湾産のエゾイシカゲ貝を使いどのような商品を作るのか皆で話し合いを持った。そして話し合いは次のように進んだ。「この貝自体が高価なので高級感のあるものを作りたい。」→「価格が高いと誰も購入しない」→「価格が高くて、一つで複数の人が楽しめるようなものだったら購入するのではないか。」→「価格は高くても高級感があり、複数の人が楽しめるものを作ろう。」



色々な案を出しながら、最終的には地元のエゾイシカゲ貝とウニを使った炊き込みご飯用の缶詰



を作ってみることに決定。試作に取りかかり、塩味や醤油味を中心に何度も味付けを変えながら炊き込みご飯の試食を続けたが、思ったような味とはならず難しい局面を迎えていた。そこへ...

### ◎達人現る！

7月末、陸前高田市が色々な面で協力いただいている勲章料理人として有名な大田忠道氏に、私たちがエゾイシカゲ貝を使った商品開発をしていることが伝わり、「もし私にできることがあれば協力したい」との連絡が入った。

【大田忠道】フジテレビで1993年～1999年に放送された、「鉄人」と呼ばれるレギュラーのシェフと「挑戦者」のシェフ料理対決をする番組「料理の鉄人」に出演し、鉄人を破り、その後も弟子たちが挑戦者として参戦した。神戸市北区の有馬温泉にて「四季の<sup>いろどりはたご</sup>彩旅籠」を経営。日本調理士会副会長をはじめとする数多くの要職にありながら800人以上の弟子を育てあげた。黄綬褒章、瑞宝単光章をW受賞した勲章料理人として有名。

その後、大田忠道氏来校。これまでの取り組み状況や試食の結果を説明した。大田氏は、「素晴らしいアイデアと取り組みだ。皆さんの力になればうれしい。」と、色々な味付け方法の講習をしてくださった。その時の講習で教えていただいた味付けは次の6種類。



- ① 和風だしがきいたの塩及び薄口醤油味。
- ② 健康維持や健康増進、病気の予防・治療、などを目的とし、中国伝統医学に基づいて調理した薬膳味。



- ③ コンソメ味。
- ④ くずした豆腐と千切りにした野菜を油でいためて作ったけんちん味。
- ⑤ ホワイトソース味。
- ⑥ 紅ズワイガニとかに味噌を使った高級カニ味。



6種類ともすばらしく、甲乙つけがたい味だったが、投票結果は①和風味と②薬膳味が拮抗し、難しい選択となった。最終的には、炊き込みご飯と成り得るかどうかと、開缶時の見栄えも考慮し①が良いのではないかとという結果に落ち着くことができた。

また、本校にはレトルト食品や大きな缶詰（4号缶）などを作る施設がないため6号缶しかつくりすることができない。4号缶なら二合炊き用にぴったりなのだが、内容量が約半分の6号缶では2倍の濃さに味付けしなければ二合炊き用にはならない。そこで、2倍の濃さのだしの取り方などを一緒に考えていただくなど、私達の色々な要求を聞いていただき、たいへん有意義な時間を過ごすことができた。



#### ◎ついに完成

大田氏による講習を参考に缶詰の試作を続け、ついに2倍の濃さに味付けした6号缶の缶詰ができあがった。この缶詰1個で2合の米を使った炊き込みご飯を作り試食したが、エゾイシカゲ貝の歯ごたえ・食感、そしてウニと彩りを添えるために入れたアオサの香りが素晴らしく、その味に皆感動。納得できる味を作り出すことができた。また、この缶詰に2倍の水を加え温めたお吸い物も作ってみたが、エゾイシカゲ貝・ウニの旨みが醸し出す濃厚で高級感溢れる素晴らしい味だった。



後日、試食していただいた大田氏からは、「陸前高田らしい商品ができたので、全国に陸前高田をPRするためにも“ふるさと納税の返礼品”としたらいいのではないか。」とのアドバイスを受けた。

#### ◎製造工程

原料：冷凍蒸しエゾイシカゲ貝、冷凍蒸しウニ（両者とも出荷時期が限定されるため、蒸して前処理をし、冷凍保存することにより季節に関係なく使用できるようにした。両者とも陸前高田市産。）彩りを添えるため乾燥アオサを少々入れることにした。



スープ：コンブ、煮干し、干し椎茸を使っただし汁とエゾイシカゲ貝を蒸した際スし、薄口醤油で味を調えたもの。





## 工程

①空缶にスライスした蒸しエゾイシカゲ貝と蒸しウニ・乾燥アオサを決められた量入れる。

②スープ注入      ③真空巻締め      ④高温高圧殺菌      ⑤冷却      ⑥完成

□以上のおり簡単な工程で作ることができる。



## ◎「ふるさと納税」返礼品への道

ホテルでの商品発表会で使用したパネルの一部この缶詰の1缶あたりの原価は約800円と、かなり高価な缶詰なので、販売するには知名度を上げることと、販売ルートを確認することが重要となる。そこで、大田氏よりアドバイスがあった“ふるさと納税の返礼品として取り扱ってもらえないか”を、返礼品を取り扱う業者に相談した。

業者との試食会や、盛岡のホテルでの商品発表会などを行った結果、これなら大丈夫との回答を得ることができ、先日実際に返礼品に決まったとのうれしい連絡が入った。全国的に商品をアピールできるふるさと納税の返礼品として取り扱ってもらえることとなりうれしい限りである。現在、缶詰に貼るラベルや化粧箱なども完成し、いよいよ全国デビューを待つばかりとなっている。



【ふるさと納税】出身地や応援したい自治体に寄付すると、上限以内であれば自己負担額2千円を除いた金額が所得税や住民税などから控除される制度。2008年度に始まった。ほとんどの自治体が返礼品を出すので、事実上「2千円で返礼品がもらえる制度」として人気を集めている。

## ◎来年度

来年度の流通に関しては、ふるさと納税返礼品の他、広田湾漁業協同組合、来年度再開する道の駅「高田松原」での取り扱いも決まった。その他にも県内のデパートなど多数の引き合いもあることから今年度の何倍もの流通になる予定である。

## ◎エピローグ（陸前高田の「向かい風」そして「夢貝かぜ」）

前述のとおり、陸前高田市にはサケやサンマ・イカの不漁、漁業従事者・水産加工業者の減少など

強い向かい風が吹いている。そこで私たちはその向かい風に少しでも立ち向かうべく、エゾイシカゲ貝やウニを使った商品開発を行ってきた。その結果、ふるさと納税の返礼品に決定するなど思いもよらぬ成果を上げることができた。

私達の向かい風を追い風にするという夢と、エゾイシカゲ貝とウニ（三陸では“かぜ”と呼ぶ）をこの缶詰に詰め世の中に送り出すため、商品名はあ

えて“陸前高田の<sup>むかい</sup>夢貝かぜ”と決定した。

この取り組みが、エゾイシカゲ貝の増産など水産業の活性化につながって行くこと、そしてたくさんの方々のふるさと納税が集まり、地域の活性化に活かすことができるようになることが今の私達の大きな願いである。

最後になるが、多くのアドバイスと激励をいただいた大田忠道氏、

同じくふるさと納税の返礼品選定にご尽力いただいた有限会社ビックアップル、エゾイシカゲ貝を提供していただいた広田湾漁業協同組合組合に感謝申し上げます。



近郊の“種山ヶ原”に立つ宮沢賢治の童話「風の又三郎」の像

私たちは向かい風に立ち向かうこの  
姿を目標として、夢を叶えたい。話  
題をうしろに思いが強くかす

#### ※研究の成果

平成 29 年度 第 56 回岩手県高等学校水産クラブ研究発表大会(宮古市) 最優秀賞

平成 29 年度 第 26 回全国水産・海洋高等学校生徒研究発表東北地区大会(陸前高田市)

最優秀賞 並びに 日本水産学会東北支部長賞

平成 29 年度 第 26 回全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会(宮崎市)

全国水産高等学校長協会奨励賞





平成 29 年度 岩手県産業教育フォーラム(サンセール盛岡) 特別発表

平成 29 年度 いわて農林水

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
<p data-bbox="209 215 408 246">久慈東高等学校</p>  <p data-bbox="236 506 384 535">ギンポの採捕</p>  <p data-bbox="225 837 392 866">得られたギンポ</p>	<p data-bbox="475 215 962 286">「久慈の特産物を利用した新しい水産加工品の開発」</p> <p data-bbox="475 295 962 448">久慈地域における新たな特産魚介類になる可能性を探るため、ギンポの利用に関する基礎的な知見を得ることを目的に、以下の点に絞って取り組んだ。</p> <p data-bbox="475 456 962 685">①ギンポを選択的に捕ることができるか明らかにすること、②自分達でギンポを加工、調理して、食味を確認すること、③ギンポに付加価値を持たせることができるか、そのために方法を検討すること。</p> <p data-bbox="475 694 962 766">【ギンポを選択的に捕ることができるか】</p> <p data-bbox="475 775 962 1164">ワイヤーハンガーを加工してギンポ釣り道具と仕掛けを準備した。餌は、カニに捕食を考慮し、赤身魚の身をサイコロ状にして塩で脱水したもの、イカの切り身、ホタテの耳を食紅で染めたもの等を使用した。久慈市船渡海水浴場地先のゴロタ石浜地先で、6回の調査で、ギンポ40個体、ゴマギンポ9個体、クジメ9個体、カジカ9個体を釣ることができた。</p> <p data-bbox="475 1173 962 1285">以上から、使用した道具を用いて当地先で、選択的にギンポ類を釣ることができると考えられた。</p> <p data-bbox="475 1294 962 1366">【ギンポの加工、調理、食味に関する検討】</p> <p data-bbox="475 1375 962 1447">ギンポとゴマギンポの食味、加工方法を含めて検討した。</p> <p data-bbox="475 1456 962 1805">ゴマギンポ、体型は、アイナメなどのように円柱に近い。容易に3枚におろすことができた。天ぷらにして揚げると、上品な白身でフワッとした食感で美味しかった。ギンポは、ウナギのような延長型で、ヌメリが多く、さばくのが難しい。釘で目打ちをしてもさばいたが、全長20cm以上の個体であれば可能。</p> <p data-bbox="475 1814 962 1886">天ぷらそばの天ぷらと使用しても、十分有用であると考えられた。</p> <p data-bbox="475 1895 962 1921">【ギンポに備わる価値に関する研究】</p> <p data-bbox="475 1930 962 2033">①天ぷら屋（東京都内：2店舗）を対象に電話での聞き取り調査を実施した。</p>	<p data-bbox="994 215 1177 295">久慈東高等学校</p>	<p data-bbox="1203 215 1302 389">8月下旬 ～1月下旬</p>	<p data-bbox="1318 215 1430 344">海洋科学系列3 年18名</p>



	<p>流通は、春から初夏にかけての2、3ヶ月間。活魚でないと購入しない。</p> <p>ギンボの成分分析結果</p> <p>②水分が 75%、タンパク質 18%、脂質 2%、タンパク質ノアミノ酸組成は、グルタミン酸、グリシン酸、アウアパラギン酸の順に多かった。</p>			
--	--	--	--	--





(3) 漁業志向青年等体験学習事業








行事名	宮古地区体験漁業実施事業
実施主体	宮古市漁業就業者育成協議会
目的	漁業就業を志向する青年等を対象とした漁業体験を実施し、漁業就業意識を高める。
実施時期、場所、参加者等	<p>○ホタテ養殖漁業体験（1回目）</p> <p>【日 時】 平成 29 年 12 月 19 日（火）午前 5 時から正午</p> <p>【場 所】 一区第 115 号ホタテ養殖漁場、日出島岸壁作業テント</p> <p>【参加者】 漁業就業希望者 1 人</p> <p>○ホタテ養殖漁業体験（2回目）</p> <p>【日 時】 平成 30 年 2 月 8 日（木）午前 7 時から午前 11 時</p> <p>【場 所】 一区第 115 号ホタテ養殖漁場、日出島岸壁作業テント</p> <p>【参加者】 漁業就業希望者 1 人</p>
事業内容 (結果)	<p>当協議会で養殖漁業の漁業体験を企画し、漁業に興味を持っている者、漁業就業を検討されている者を対象に公募を行い、漁業者の指導の下、希望する漁業種類の漁業体験を実施した。</p> <p>○ホタテ養殖漁業体験（1回目）</p> <p>【日 時】 平成 29 年 12 月 19 日（火）午前 5 時から正午</p> <p>【場 所】 一区第 115 号ホタテ養殖漁場、日出島岸壁作業テント</p> <p>【参加者】 漁業就業希望者 1 人</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前 4 時 50 分に日出島岸壁作業テントに集合し、漁場に向けて出航</li> <li>・漁場においてホタテ養殖のレクチャーを受けながら水揚げ作業</li> <li>・午前 6 時 00 分頃、日出島岸壁作業テント付近において出荷準備作業を体験し正午頃に体験を終了</li> </ul>   <p>○ホタテ養殖漁業体験（2回目）</p> <p>【日 時】 平成 30 年 2 月 8 日（木）午前 7 時から午前 11 時</p> <p>【場 所】 一区第 115 号ホタテ養殖漁場、日出島岸壁作業テント</p> <p>【参加者】 漁業就業希望者 1 人</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前 6 時 50 分に日出島岸壁作業テントに集合し、漁場に向けて出航</li> <li>・漁場においてホタテ養殖のレクチャーを受けながら水揚げ作業</li> <li>・午前 8 時 00 分頃、日出島岸壁作業テント付近において出荷準備作業を体験し午前 11 頃に体験を終了</li> </ul>  

### 3 (1) 研究グループ等活動事業

#### ア 研究実践活動

課 題 名	C S Aと連携した養殖ホタテの販路拡大		
実 施 主 体	綾里漁業協同組合 小石浜青年部	構成員数 (うち参加者数)	10名 (8名)
事業の目的	東北食べる通信(編集長:高橋博之)の支援を受けて小石浜産の「恋し浜ホタテ」との宣伝に取り組み、都内を中心に、東北食べる通信の熱心な読者を通じて生産者と消費者の繋がりを構築すること。		
活動内容	<p>実施日時:            ①平成29年11月21日            ②平成30年2月8日</p> <p>場 所:            ①東京都杉並区            ②長野県佐久市</p> <p>参 加 者:            飲食店・小売店・量販店の各関係者及びC S Aコミュニティ関係者</p> <p>平成29年度全国青年・女性漁業者交流大会において成果を発表し、農林水産大臣賞を受賞した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

課 題 名	養殖用マガキ種苗の地場採苗試験		
実施主体	門之浜かき養殖組合	構成員数 (うち参加者数)	24名 (11名)
事業の目的	<p>門之浜かき養殖組合では本県他地区のカキ養殖業者と同様、養殖用種苗を宮城県に全て依存している。</p> <p>近年、門之浜湾内の養殖生産物や岸壁へマガキ付着が顕著にみられたことから地場採苗の可能性を探るため、採苗試験を実施する。</p>		
材料及び方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水温調査 (オンセットコンピューター製「ティドビットv2」4個) 湾内2か所の水深1mと5mの計4か所に設置し水温を観測。</li> <li>・ラーバ調査 水温測定地点2か所でプランクトンネット垂直引きで行ったが、ネットが破損したことにより、バンドーン採水器で水深1mで10リットル採水し検鏡。海水1リットルあたりとして換算した。</li> <li>・マガキ成熟度指数 (GSI) 調査 1回実施したが、温湯駆除作業の影響と思われるGSIの高値により継続せず。</li> <li>・付着稚貝調査 試験用採苗器を週2回のペースで回収し計測した。</li> <li>・シングルシード用プレート採苗試験 シングルシード用プレート2連を通常のホテル原盤採苗器と一緒に垂下し、付着状況を比較した。</li> </ul>		
活動内容 (結果及び 考察)	<p>詳細は別添報告書のとおり 養殖施設への採苗器の設置</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>防波堤設置の採苗器</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>養殖施設設置の採苗器</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>シングルシード用採苗盤</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>シングルシード</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>		

課 題 名	未利用資源等活用商品開発活動
実 施 主 体	小本浜漁業協同組合女性部生活改善クラブ
事 業 の 目 的	未利用低利用資源である川鮭等を用いた商品開発の研究・試験販売を行い、商品化を目指す。
材 料 及 び 方 法 等	<p>1. 商品開発</p> <p>(1) 試作会 1回目 6月 2日 小本津波防災センター調理室 漁協女性部員等 2回目 7月 24日 小本浜漁協調理室 漁協女性部員等</p> <p>(2) 料理教室 6月 21日 小本津波防災センター調理室 講師 盛岡グランドホテル 和食調理長 漁協女性部員等</p> <p>2. 試作品の試験販売</p> <p>1回目 10月 8日 龍泉洞秋祭り 龍泉洞地内 漁協女性部員等 2回目 10月 29日 おもと鮭まつり 愛土館 漁協女性部員等</p>
活 動 内 容 (結 果 及 び 考 察)	<p>1. 商品開発</p> <p>小本の食材（未利用低利用資源等）を活用したオリジナルの商品、メニューの開発を行った。</p> <p>(1) 女性部による試作会の実施 2回</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">  </div> <p>(2) プロの料理人を招いて料理教室を開催（商品、メニュー開発のノウハウ、調理技術指導）。</p> <p>1回</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>2. 開発品の試験販売</p> <p>試作品等の商品化を図るため、イベント等に出店し試験販売を行った。 2回</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>





課題名	アワビ資源有効活用調査（標識放流）		
実施主体	玉川浜漁業研究会	構成員数 (うち参加者数)	8名 (8名)
事業の目的	標識放流により前浜のアワビの漁獲率、資源量を把握し、資源の有効利用に活用する。		
実施時期、場所、参加者等	<p>【時期】平成29年度10月～平成30年2月</p> <p>【場所】玉川浜地先漁場</p> <p>【標識材料】ダイモテープ、ステンレス線、ビニールテープ</p> <p>【方法】平成29年10月19日に、玉川浜漁協の地先漁場から漁獲サイズのアワビ103個を採取し、標識を装着して漁場内へ均等となるよう分散放流した。漁期中に漁獲された標識アワビの個数から、漁獲率を求め、得られた漁獲率と今年のアワビの漁獲量から漁獲対象アワビの初期資源量を求めた。</p>		
活動内容 (結果及び考察)	<p>平成29年10月19日に玉川浜漁協の地先漁場（図1）から漁獲対象サイズのアワビ103個を採取して標識を装着した後、漁場内に均等となるよう分散放流した。標識は赤のダイモテープにH29と刻印したもので、アワビの呼水口に被覆ステンレス線で固定した（写真1）。放流個体の平均殻長は100.9mm、平均重量は138.9gであった（図2）。11、12月の漁期中に再捕された標識個体の数から漁獲率を求め、得られた漁獲率とアワビの漁獲量から漁獲対象アワビの初期資源量を推定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁獲率＝アワビの再捕個数÷放流数×100</li> <li>・ 初期資源量＝漁獲量÷漁獲率</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>図1 調査漁場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真1 標識装着状況</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>図2 標識アワビの殻長組成</p> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">(3) 結果</p>		

表2に標識個体の再捕状況を示した。平成29年度は合計11回の口開けがあり、漁期中に再捕された標識個体は37個で、漁獲率は35.9%であった。

昨年の調査では漁獲率が54.5%と県内他地区と比べて高かったが、これは、標識アワビの放流場所が一部（ひらどこ漁場）に偏っていたため、実際よりも高く推定されたものと考えられる。今年の調査では、標識アワビの放流場所を見直し、漁場内に均等となるよう分散放流しており、今回の調査結果は玉川浜漁協の実態に近いものと思われる。

表3に漁獲対象アワビの初期資源量の推定値を示した。漁獲量と漁獲率から平成29年度の初期資源量は51,022個、6,536kgと推定された。

表2 標識個体の採捕状況

年度	標識放流数	採捕個数	漁獲率	口開け回数	標識種類
H28	112	61	54.5%	7回	青
H29	103	37	35.9%	11回	赤

表3 漁獲対象アワビの初期資源量の推定

年度		漁獲量 (kg)	1個あたり重量(g)	推定漁獲個数	初期資源量 (個)	初期資源量 (kg)
H28	1号品	1,879.2	136.3	13,787	25,297	3,448
	2号品	90.4	136.3	663	1,217	166
	3号品	474.7	87.2	5,444	9,989	871
	合計	2,444.3	—	19,894	36,503	4,485
H29	1号品	1,701.3	138.9	12,248	34,117	4,739
	2号品	312.1	138.9	2,247	6,259	869
	3号品	333.3	87.2	3,822	10,646	928
	合計	2,346.7	—	18,317	51,022	6,536

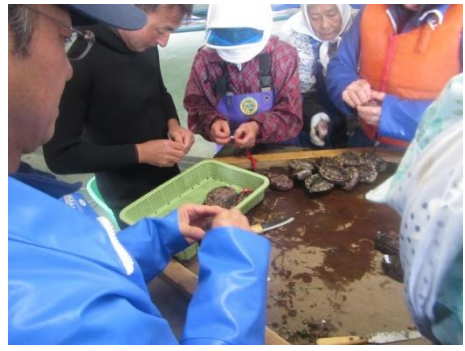
\*H29の3号品の1個あたり重量はH28と同じと仮定。

参考 他地区のアワビ漁獲率 (%)

	H18	H19	H20	H21	漁法
宿戸	—	—	—	39.6	素潜り
土釜	25.5	25.5	24.5	15.3	
前浜	32.2	20.5	29.0	12.6	
大浜・大島	—	—	14.5	18.7	
吉浜	12.8	27.3	13.3	14.3	カギ獲り
唐丹	21.8	33.0	8.3	—	

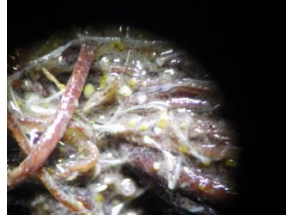
岩手県水産技術センター年報 より

活動内容  
(結果及び  
考察)



課 題 名	マボヤの採苗・養殖試験																										
実施主体	大尻漁業研究会	構成員数 (うち参加者数)	17名 (8名)																								
事業の目的	久慈湾でのマボヤの採苗・養殖試験 波浪が高く介類等の養殖ができなかったが、港口防波堤の整備が今後進み、静穏域が発生し、介類の養殖可能となることから、マボヤの採苗及び養殖試験を継続して行なうことで、ホヤ養殖の技術を確立し、湾内における養殖生産の振興を図る。																										
実施時期、及び方法等	<b>【実施時期】</b> 1 マボヤ養殖試験(海上) 平成29年7月25日～平成30年3月7日 2 マボヤ採苗試験(陸上) 平成29年12月12日～平成29年12月26日 <b>【場 所】</b> 1 マボヤ養殖試験(海上) 久慈市長内町大尻地先 養殖施設(100m 2台) 2 マボヤ採苗試験(陸上) 久慈市長内町大尻漁港及び地先 <b>【参加者】</b> 部員15名																										
活動内容 (結果及び考察)	1 マボヤ養殖試験(海上) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">月日</th> <th style="width:40%;">内 容</th> <th style="width:45%;">結 果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">H29年度養殖試験(海上)</td> </tr> <tr> <td>H29 7/25</td> <td>施設の流失確認</td> <td>波浪により養殖試験施設(100m×2台)及び垂下連〔7m×14本(H28年採苗)〕が流失したため養殖試験は中止となった。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">H29年度保苗、養殖試験(海上)</td> </tr> <tr> <td>H29 11～12月</td> <td>施設の復旧</td> <td>養殖試験施設(100m×2台)復旧</td> </tr> <tr> <td>H29 12/26</td> <td>沖出し・保苗</td> <td>採苗施設で採苗した種苗を試験養殖施設に沖出しをし、保苗した。 養殖施設1列目・・・採苗器(33m/枠)6枠+採苗糸1巻き 養殖施設2列目・・・採苗器(33m/枠)6枠</td> </tr> <tr> <td>H30 1/17</td> <td>採苗器の流失確認</td> <td>時化の波浪より、採苗器3枠から採苗糸が流失した。</td> </tr> <tr> <td>H30 3/7</td> <td>種苗の生育状況の確認</td> <td>残った採苗器から採苗糸の一部を切断して、顕微鏡下で観察し、稚ホヤの生育を確認した。採苗糸(5cm)の表面は海藻(緑色)が多く付着し、稚ホヤの付着は海藻の付着が少ない採苗糸の裏側や端側で1視野当たり1～5個散見された。</td> </tr> </tbody> </table> <p>・平成29年7月の波浪により、養殖試験施設(2台)及び垂下連が流失し、H28年産種苗による養殖試験は中止となった。</p> <p>・平成30年1月の波浪により保苗中のH29年度産採苗の採苗器、採苗糸の一部が破損した。今後、残った種苗の生育状況を確認しながら養殖試験を継続して実施し</p>			月日	内 容	結 果	H29年度養殖試験(海上)			H29 7/25	施設の流失確認	波浪により養殖試験施設(100m×2台)及び垂下連〔7m×14本(H28年採苗)〕が流失したため養殖試験は中止となった。	H29年度保苗、養殖試験(海上)			H29 11～12月	施設の復旧	養殖試験施設(100m×2台)復旧	H29 12/26	沖出し・保苗	採苗施設で採苗した種苗を試験養殖施設に沖出しをし、保苗した。 養殖施設1列目・・・採苗器(33m/枠)6枠+採苗糸1巻き 養殖施設2列目・・・採苗器(33m/枠)6枠	H30 1/17	採苗器の流失確認	時化の波浪より、採苗器3枠から採苗糸が流失した。	H30 3/7	種苗の生育状況の確認	残った採苗器から採苗糸の一部を切断して、顕微鏡下で観察し、稚ホヤの生育を確認した。採苗糸(5cm)の表面は海藻(緑色)が多く付着し、稚ホヤの付着は海藻の付着が少ない採苗糸の裏側や端側で1視野当たり1～5個散見された。
月日	内 容	結 果																									
H29年度養殖試験(海上)																											
H29 7/25	施設の流失確認	波浪により養殖試験施設(100m×2台)及び垂下連〔7m×14本(H28年採苗)〕が流失したため養殖試験は中止となった。																									
H29年度保苗、養殖試験(海上)																											
H29 11～12月	施設の復旧	養殖試験施設(100m×2台)復旧																									
H29 12/26	沖出し・保苗	採苗施設で採苗した種苗を試験養殖施設に沖出しをし、保苗した。 養殖施設1列目・・・採苗器(33m/枠)6枠+採苗糸1巻き 養殖施設2列目・・・採苗器(33m/枠)6枠																									
H30 1/17	採苗器の流失確認	時化の波浪より、採苗器3枠から採苗糸が流失した。																									
H30 3/7	種苗の生育状況の確認	残った採苗器から採苗糸の一部を切断して、顕微鏡下で観察し、稚ホヤの生育を確認した。採苗糸(5cm)の表面は海藻(緑色)が多く付着し、稚ホヤの付着は海藻の付着が少ない採苗糸の裏側や端側で1視野当たり1～5個散見された。																									

ていく予定。



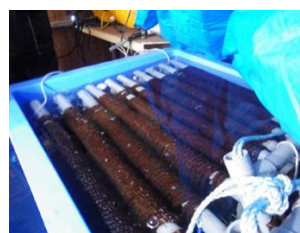
## 2 マボヤ採苗試験（陸上）

月日	内容	結果
H29 12/17	親ホヤ収容	大尻地先から親ホヤ 150 個を潜水で採捕し、大尻漁港内の仮設の採苗施設に収容。
H29 12/19 ～12/25	採卵、採苗作業	12/19 卵数確認 110 万粒 12/20 卵数確認 80 万粒 12/21 卵数確認 30 万粒 採卵数 合計 220 万粒 12/25 付着密度確認 0.75 個/cm 付着数 0.75 個/cm×100×400m=30,000 個 (採苗器 12 枠×33m/枠) +採苗糸(4m)1 巻き
12/26	沖出し	採苗施設で採苗した種苗を試験養殖施設に沖出しをした。 養殖施設 1 列目・・・採苗器 6 枠+採苗糸 1 巻 養殖施設 2 列目・・・採苗器 6 枠

活動内容  
(結果及び  
考察)

・今年度は、仮設の採苗施設での採苗を試みたところ、受精卵は 220 万個、採苗糸への付着密度は 0.75 個/cm と共に少なかった。要因として、採苗施設の近隣を流れる河川水の影響や海水温の低下に伴う採苗率の低下が考えられた。

次年度は、取水位置の変更や飼育水温の低下対策（加温ヒータの導入、ブルーシート等での保温）が必要。



ア 研修活動

課 題 名	魚類付加価値向上調査視察		
実 施 主 体	釜石湾漁業協同組合青年部	構成員数 (うち参加者数)	22 名 (5 名)
事業の目的	釜石湾漁協で漁獲される魚類の価格向上と漁船漁業者の収入アップを目的とした他県の付加価値向上技術や取り組み状況を調査する。		
材料及び方法等 (又は実施時期、 場所、参加者等)	<p>【実施時期】平成 29 年 9 月 25～26 日</p> <p>【実施場所】山形県鶴岡市及び宮城県石巻市</p> <p>【参加者】5 名</p>		
活動内容 (結果及び 考察)	<p>・研修結果</p> <p>＜山形県漁業協同組合＞</p> <p>まず、山形県漁業協同組合の温海支所付近の漁港へいきました。その後出荷倉庫と漁協へむかい「庄内おぼこサワラ」となるサワラを実際にとり、神経を抜いている漁師さんと漁船を視察しに行きました。</p> <p>そこではサワラの漁獲方法・神経抜きを始めた理由・サワラの恩恵について聞きました。</p> <p>まず神経抜きをはじめた理由についてです。サワラが取れ始めたのが約 15 年ほど前、それまではほぼまったく漁獲のなかった魚だったのですが、年々漁獲量が上がっていき今では多い時で一日 200～300 本ほどとれているそうです。サワラがとれるまでの生活はかなりきつかったそうです。そういう中とれ始めたサワラという魚でしたが、その時サワラを生で食べる現状がほぼなく、地元の市場などに卸しても 1 キロ 300～400 円ほどでした。</p> <p>その現状の中一人の漁師が動き出しました。それまで築地市場に個人的に取引を行っていたのですが、その中に神経を抜いて出荷している魚種もありました。そこで今取れ始めたサワラを高く買ってもらうために、まず神経を抜いたサワラを地元の市場に卸したそうです。だが金額は神経を抜く前の魚と同じ値段でありせっかく手をかけたのにと落胆したのですが、すぐ切替をして次に、山形県の漁師でサワラをとっているはえなわ漁師を集め、さらにその中で神経抜きに興味のある人を募り総勢 13 人でブランド協議会というものを立ち上げたそうです。そしてその中の数人で築地市場の東市を訪れ神経を抜いたサワラを実際にもっていき、プレゼンをしたそうです。最初は 2,3 キロと比較的型の小さいサワラに対し厳しい意見ばかりでしたが、実際食べてもらったところ評価があがり一緒に売出してもらえるようになったそうです。その後東市の職員と漁師さんで密に連絡を取り合い、東市は販路確保、漁師は鮮度や状態の向上をお互いに鼓舞し合いながら二人三脚で進めたそうです。その結果現在一キロ当たり 2,000～2,500 円となんと約 7 倍もの価格向上に成功しました。</p> <p>この結果に対し最初に動き出した漁師である鈴木さんは一番大事なものは心だとおっしゃっていました、立ち上がった漁師たちの心、それを受け販路拡大に尽力して</p>		

くれた東市職員の心、それを消費者に届ける卸業者の心、こういう心のつながりが「庄内おぼこサワラ」というブランドを生み出したそうです。

市場に公開して東市以外の業者が買えるようにすることは簡単であり金額も一時的には上がるだろうが、継続させるためには自分たちの魚を買ってもらえる業者とのつながりが大事だと、そしてその商品への評価が自分たちのやる気にもつながり、漁師の魚への扱いの向上につながっているようです。



#### <フィッシャーマン・ジャパン>

ここでは創設メンバーでもあり事務局として先頭に立って動いている長谷川さんにフィッシャーマン・ジャパンの活動についてかかわったいろいろな方に会い歩き、研修しました。

最初は本部がある千石町に向かいました。

蕎麦屋を改築してつくったそうで、入って左のカウンターがある部屋で試食会を、二階で作戦会議を行っているそうです。

そこではホワイトボードにどのように売り込みをするか、どのくらいの単価にすればどのくらいの利益を望めるか、などの数々の戦略が書いてあり内容の濃さ人材の優秀さを肌で感じました。



次に石巻支所に赴きました。そこでは漁協とフィッシャーマン・ジャパンとのつながりを研修しました。最初はやはり漁協としては「怪しい団体」に感じて対応していたようですが、自分の組合員も入っていることと漁協のためや組合員の為に尽力を尽くしていることが理解され、だんだんと信頼関係を築いていったようです。

特に漁協に対し行ったことは新規漁業者の紹介でした。自分たちで漁業に興味のある人を探し出し、その人を乗せる船頭さんも探し、さらに市の補助金ももらえるよう交渉をしたり、シェアハウスを自ら建設したりなど広範囲にわたり努めたようでした。そのかいもあり周りの漁師や漁協にかなりの信頼を得ていました。



次にシェアハウスを視察しました。古い民家を改築し4人ほどで共同生活を行っておりまして。やはり組合員資格においてネックになっている住居の関係の対策として改築されたようです。月々水道光熱費込で30,000円と比較的リーズナブルな家賃であり、さらにそのお金については、漁業者のイベント費用や家の修繕に使われているそうです。



最後に神経締めをしている仲買人のダイスイを視察しました。

まずタコ、鯛、スズキ、アイナメと4種類の神経締めを視察させていただきました。神経締めといっても工程は3工程あり、脳死、血抜き、神経締めの三つです。この三つを魚の種類、鮮度、卸した先で何に使うかで組み合わせているそうです。

この技術習得まで8年かかっているそうでしたがまだまだ完成ではないとおっしゃっていました。

さらにダイスイで一番衝撃を受けたのは、漁師との信頼関係でした。前日伺った山形県での話や同行した漁師の話を知ると一般的に問屋と漁師の関係はあまり良好ではなく、漁師は問屋に対しいかに魚を買いたたき高く売るかしか考えてないという意見がほぼを占めていましたが、このダイスイはいかに品質の高い商品を漁師につくってもらい、いかに適正価格で買うかということに心情に仕事しているそうでした。

例を上げると、ある漁師が神経を締めて鮮度の高いアイナメを市場に出荷したそうなのですが、市場ではほかのアイナメと同価格で買われてしまい、せっかく手かけたのにとっても落胆していたそうです。その話をきいたダイスイさんは最初三倍の価格で直接買い取っていましたが、このままではだめだと思い、市場に出荷してもらいそれを三倍ほどの高値でずっと入札していたそうです。その結果気になったほかの買入が入札するようになり、ほかのアイナメとは別物として扱われるようになったそうです。

このように漁師や魚や売先のことを第一に考え商売していることに感動しました。



<まとめ>





以上が今回の研修視察の結果です。







今回の研修視察に同行した漁師ひとりひとり、自分の仕事にどう生かせるか、自分はどうすればこれ以上の価値を見いだせるのかを考える良い刺激になったようです。

私としても今後の漁協での仕事に生かせるところは生かしていきたいと思えます。

特にすべてにおいて魚の価値を上げることやその浜を活性化するためには、一人ひとりの意識を高め、協力し売り先とその後のことも考え信頼関係を築き、心でつながることがすべてであり、漁師の自身ややる気を高めるためには、市場での評価を得ることが一番だと学びました。

課 題 名	水産加工・販売技術等先進地視察調査		
実 施 主 体	小本浜漁協女性部生活改善クラブ	構成員 (うち参加者数)	15名 (3名)
事業の目的	小本浜漁協で運営する産直施設「浜の駅おもと愛土館」の運営・販促企画等の参考に するため、魚介類の加工施設及び販売施設（市場、直売所等）の先進地視察研修 を行う。		
実施時期、 場所、参加 者等	<b>【実施時期】</b> 平成30年2月23～25日 <b>【視察場所】</b> 北海道函館市、七飯町（加工施設、市場、直売所等） <b>【参 加 者】</b> 漁協女性部員3名（産直施設職員2名随行）		
活動内容 (結果及び 考察)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加工施設視察（製造技術や衛生管理を調査） 水産加工品等の開発のため、先進地の加工施設を視察し、知識、技術、衛生管理 等を調査した。</li> <li>・市場、朝市、各直売施設の視察 水産物や加工品等の販売のノウハウを調査するため先進地を視察する。 市場、直売所では、運営、販促方法（POP、ディスプレイ、スタッフ対応等）や 品質、価格、パッケージ、表示等を調査した。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>		

課題名	カキ養殖技術先進地視察		
実施主体	野田漁友会	構成員数 (うち参加者数)	6名 (3名)
目的	シングルシードカキ養殖の先進地である北海道厚岸町のカキ種苗生産施設、養殖漁場等を視察し、養殖業者等との情報交換を行い、野田漁友会で実施しているカキ養殖方法及び流通販売方法の改善を図る。		
実施時期、場所、参加者等	<b>【実施日時】</b> 平成 29 年 6 月 7 日 (水) ～ 9 日 (金) <b>【場 所】</b> 北海道厚岸町カキ種苗センター及び厚岸漁業協同組合 <b>【参 加 者】</b> 野田漁友会 3 名		
結果及び考察	<p>1 視察内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道厚岸町カキ種苗センターおよび厚岸漁業協同組合カキ種苗生産施設の視察</li> <li>・厚岸漁業協同組合カキ養殖漁場の視察</li> <li>・現地においてカキ養殖業者との情報交換</li> </ul> <p>2 今後に向けた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の視察によって得た養殖方法、流通販売等に関する情報を当地区のカキ養殖へ展開できるよう検討する。</li> <li>・厚岸からのシングルシード種苗の購入について、村、県と連携しながら検討を行う。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;">   </div>		



### 3 (2) 青年等交流活動事業

#### ア 情報交換会の開催等



課題名	全国漁業士連絡会議及び全国青年女性交流大会への参加		
実施主体	岩手県漁業士会	構成員数 (うち参加者数)	95名 (3名)
事業の目的	全国漁業士連絡会議に参加して他県の漁業士と情報交換するとともに全国青年女性漁業者交流大会に参加した他県の優良事例を学び地域の活性化の一助とする。		
実施時期、場所、参加者等	<p>① 全国漁業士連絡会議 【実施時期】平成30年2月28日 【場所】東京都(農林水産省) 【参加者】吹切守指導漁業士</p> <p>② 全国青年女性漁業者交流大会 【実施時期】平成30年3月1日～2日 【場所】東京都(ホテルグランドアーク半蔵門) 【参加者】吹切守指導漁業士、小谷地勝指導漁業士、安藤正樹指導漁業士</p>		
活動内容 (結果)	<p>① 全国漁業士連絡会議 全国から26名の漁業士が参加し、意見交換が行われた。 漁業者自ら又は浜の女性や地域と連携した漁家向上の取組みや販路拡大に向けた流通、小売業者との連携について各ブロック(東北・北海道ブロック、日本海ブロック、関東・東海ブロック、瀬戸内ブロック、九州ブロック)から報告があった。 出席した漁業士の方々からは、量販店との連携や道の駅での販売。魚食普及に取り組んでいる様子が紹介された。海外へ輸出している事例は、北海道と沖縄県の2事例であった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>② 全国青年女性漁業者交流大会 全国から44課題、京都府立海洋高等学校海洋科学科から1題の合計45課題の発表があった。 岩手県からは野田村漁協下安家漁業研究会の内野澤正勝さんが「復活！！下安家研究会一幾多の災害を乗り越えて、新たなる挑戦へー」と題して第2分科会で発表し、広田湾漁協女性部(米崎支部)の大和田三代子さんが「漁協女性部で育む漁業の担い手」と題し第5分科会で発表した。大和田三代子さんは水産庁長官賞を受賞した。</p>		



活動内容  
( 結 果 )

課 題 名	第 23 回全国青年・女性漁業者交流大会への参加		
実 施 主 体	岩手県漁協女性部連絡協議会	構成員数 (うち参加者数)	6,267 名 (5 名)
事業の目的	全国の青年・女性漁業者の日頃の研究・実践活動発表を聴講することにより、部員の知識向上を図り活動の活性化に資することを目的とする。		
実施時期、場所、参加者等	<b>【実施時期】</b> 平成 30 年 3 月 1 日～3 月 2 日 <b>【場 所】</b> ホテルグランドアーク半蔵門 (東京都千代田区) <b>【参 加 者】</b> 3 名 (重茂、広田湾女性部員)		
活動内容 ( 結 果 )	<p>全国の青年・女性漁業者が一堂に会し、日頃の研究、実践活動の成果を発表するとともに、参加者間の交流により知識や情報を共有・進化させ水産業・漁村の発展と活性化に資することを目的に J F 全漁連の主催により開催されているもので、全国で実施している漁業および加工・販売の実践や成果、魚食普及活動の事例等、今後の本県女性部活動の事業推進に大きく役立つものであった。</p> <p>なお、本県女性部代表として活動実績発表を行った広田湾漁協女性部は、第 4 分科会において水産庁長官賞を受賞した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>第23回全国青年・女性漁業者交流大会会場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>漁協女性部で育む 漁業の担い手</p> <p>広田湾漁業協同組合女性部 米崎支部 支部長 大和田 三代子</p> </div> </div>		

課 題 名	漁業就業支援フェア 2017 への参加		
実 施 主 体	岩手県漁業士会大船渡支部	構成員数 (うち参加者数)	30 人 (1 人)
事業の目的	担い手不足が言われるようになって久しいが、その対策についてはこれまで行政や漁協に任せ切りになっていた。そこで、漁業者の指導的役割を担う漁業士が主体となり新規就業者の確保・育成を実践し、課題や問題を整理・克服しながら最終的に地域内で独立できるような支援を行い、モデルケースとして他の漁業者の参考になることを目指す。全国規模の交流大会に参加し、支部会員の資質向上と地域の活性化を図る。		
実施時期、場所、参加者等	<p>【内 容】 漁業就業支援フェアへの参加による新規漁業就業者（養殖業）の確保及び育成</p> <p>【参加日及び場所】 平成 29 年 7 月 9 日東京都、平成 29 年 7 月 15 日宮城県仙台市</p> <p>【参 加 者】 藤田敦指導漁業士</p>		
	<p>藤田指導漁業士がカキ養殖における新規就業者を募集するためフェアに参加した(同じくカキ養殖の新規就業者を求めて個人的に参加している大和田信行氏と同じブースで出展)。</p> <p>&lt;東京会場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来場者 3 名と面談をして研修生候補を 1 名希望した。</li> <li>・ 1 名(埼玉県)が現場体験で当地を訪問済み。</li> <li>・ 相手方の決断を待っている状態。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>&lt;仙台会場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 猛暑の影響のためか、主催者によると過去最低レベルの来場者数であった。</li> <li>・ 来場者 5 名と面談して研修生候補を 2 名希望した。</li> <li>・ 3 名(愛知県、山形県、秋田県)が現場体験で当地を訪問済み(研修生候補として希望した 2 名は山形県と秋田県)。</li> <li>・ 秋田県と愛知県は就業を断念。現在、山形県出身者の決断を待っている状態。</li> </ul>		

課 題 名	宮古市漁業者交流事業「浜コン」		
実 施 主 体	宮古市漁業就業者育成協議会	構成員数 (うち参加者数)	5 団体 (12 名)
事業の目的	未婚漁業者の婚活の機会として交流会を実施し、未婚漁業者の結婚対策を行い、漁業経営体維持の一助とする。		
実施時期、場所、参加者等	<p>【日時】 平成 29 年 2 月 25 日 (日) 13 時から 17 時</p> <p>【場所】 岩手県宮古市 (重茂地区総合交流促進センター)</p> <p>【参加者】 宮古漁業協同組合、重茂漁業協同組合、田老町漁業協同組合 (以下、「3 漁協」という。) の男性未婚漁業者 12 名、県内の未婚女性 12 名</p>		
活動内容 (結果)	<p>○宮古市漁業者交流事業「浜コン」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介 (重茂地区総合交流促進センター2階)</li> <li>・1対1トークタイム、リクエストカード記入 (第一印象)</li> <li>・重茂漁協施設見学ツアー ①さけます人工ふ化場 (重茂7-17) ②あわび種苗センター (重茂7-14-2)</li> <li>・会食・フリータイム (交流センター)</li> <li>・リクエストカード記入 (最終)、カップル発表</li> </ul> <p>【活動要旨】</p> <p>宮古市漁業就業者育成協議会が事務局となり、宮古地区の未婚漁業者の配偶者対策として、コミュニティーエフエム放送局の協力を得てFM放送やSNS等を活用して参加者を募り、3漁協管内の独身漁業者12名と県内の未婚女性12名を招いて開催しました。</p> <p>当日は参加者の自己紹介に続いて、1対1のトークタイムを行い、その後、重茂漁協施設見学ツアーに行き、さけます人工ふ化場ではペアになり鮭の稚魚に餌やりをし、あわび種苗センターではミニゲームを行い、男女の交流を深めるとともに漁協施設への知識を深めることができました。</p> <p>その後、会食にてしゃぶしゃぶを行い、食材として用いた重茂産のアワビとワカメの説明をし、地域の海産物への理解を深めることができました。</p> <p>最後にフリータイムを経て、気に入った異性をカードに記入してもらい発表するカップリングを実施した結果、残念ながらカップルの成立はありませんでしたが、参加者の多くは別途設定した二次会に流れて、連絡先を交換するなど一層交流を深めていました。</p> <p>会場内での参加者アンケート調査結果では、今後も同様のイベントが開催された場合には参加したいかと伺ったところ、男女とも半数がぜひ参加したいと回答しており、参加者が楽しみながら婚活を行えるイベントであったと思います。</p> <p>(自己紹介をする参加者)                      (1対1トークタイム(2分ごとに男性が回転))</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		



(重茂漁協施設見学ツアー (さけますふ化場) )



(重茂漁協施設見学ツアー (あわび種苗センター) ・ミニゲーム)



(会食・フリータイム)



残念ながらカップル誕生とはなりませんでしたが、数名の参加者が連絡先を交換していましたので、今後、交流が深まることを期待します

イ 地区活動実績発表大会

課 題 名	平成 29 年度 J F 岩手漁青連九戸地区活動実績発表大会		
実 施 主 体	J F 漁青連九戸支部	構成員数 (うち参加者数)	60 名 (52 名)
事業の目的	活力ある漁村づくりに向け、組織活動の充実と改善のため情報交換を積極的に推進し、会員相互の高揚を図った。		
実施時期、 場所、参加 者等	【時期】平成 29 年 6 月 21 日 (木) 【場所】久慈グランドホテル 【参加者】83 名 支部会員、県、女性部、漁協関係者等		
活動内容 (結果)	<p>(1) 実績発表</p> <p>①「復活・・・下安家漁業研究会」(下安家漁業研究会 内野澤 正勝)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マガキシングルシード養殖試験について発表が行われた。</li> <li>・(成長把握試験) 主なマガキの産地では冬に旬をむかえる一方で、野田のマガキは初夏に旬をむかえることがわかった。旬の時期が他産地と違うことは、販売の際の差別化に有効であると考えます。</li> <li>・(防汚塗料試験) 養殖に使用するカゴに防汚塗料を塗布したところ付着物が大幅に減少した。付着物の減少により、カゴの潮通しが良くなり、マガキの成長が早くなった。</li> <li>・今後は、シングルシード種苗の安定確保や、養殖方法のさらなる改善などの課題を解決し、マガキシングルシード養殖の事業化を目指す。</li> </ul> <p>②「小子内のウニを全国のみなさんへ」</p> <p>(小子内浜漁協女性部 毛糠カツ子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京及び愛知県で行った生ウニ等の試食販売について発表が行われた。</li> <li>・生ウニを食べる習慣がない愛知県で行った試食販売では、ウニが嫌いという消費者にも小子内浜のウニを試食してもらい、「美味しい」「ウニのイメージが変わった」等の好評を得ることができた。東京及び愛知県ともに、準備したウニはほぼ完売となり、試食を通して本当のウニの美味しさを PR することで、さらなる販路拡大が期待できる。</li> <li>・今後も漁協と連携して小子内浜のウニの PR を行っていく。</li> <li>・海浜清掃、石鹼普及活動を実施した。</li> </ul> <p>(2) 報告</p> <p>「漁業の可能性について」(盛岡中央高等学校 内野澤 安紀)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁家に育った発表者が、高校の内陸出身者と交流して考察した、漁業の可能性について発表が行われた。</li> <li>・日本人にとって魚介類は日々の食事に欠かせないものであるが、一方で、内陸出身の人は、生きているホヤの形を知らないなど、魚介類に関する知識や情報が少ない。魚介類について情報発信し、その美味しさをさらに多くの人に知ってもらうことで、販路拡大を図ることができると考えた。</li> </ul> <p>(3) 各研究会活動報告</p>		

①野田漁友会（安藤正樹）

・先日、厚岸に行きマガキシングルシード養殖について見学してきた。荒海ブランドの知名度は盛岡より南ではまだ低いいため、今後も積極的に売り込みを行いたい。

②久喜小型漁船研究グループ（自秀明）

・小型漁船漁業者 17 名で構成されている。海岸清掃や海づくり少年団の活動支援を行っている。

③二子漁業研究会（自秀明）

・12 名で構成されている。生産部とともに、朝市や久慈湾の静穏域を利用した養殖試験に取り組んでいる。

④大尻漁業研究会（自秀明）

・49 名で構成されている。生産部とともに、朝市や久慈湾の静穏域を利用した養殖試験に取り組んでいる。

⑤小子内漁業研究会（長坂照夫）

・24 名で構成されている。今年はウニの歩留まりが悪く困っている。半年ほど蓄養しているナマコが順調に成長しており、今後は成長調査等を実施したい。

⑥宿戸漁業研究会（馬場等）

・25 名で構成されている。ウニ直売会や朝市の実行部会として活動している。小中学校を対象とした水産教室の支援を行っている。

(3) 研修

「養殖施設における付着生物について」

(水産技術センター 専門研究員 貴志 太樹)

・養殖施設における付着生物は、作業性の低下、養殖施設の破損、生産物の成長低下などの原因となり、養殖生産の妨げになる。付着生物対策を行うためには、付着生物について知ることが必要。また、付着生物対策にはシリコン系防汚剤等の使用が有効だが、コスト面の課題がある。



下安家漁業研究会 内野澤正勝氏 小子内浜漁協女性部 毛糠カツ子氏 盛岡中央高等学校 内野澤安紀氏



各研究会活動報告



水産技術センター 貴志太樹専門研究員

(3) 地域リーダー研修事業（漁業士活動等）

課 題 名	岩手県漁業士会・研修会		
実 施 主 体	岩手県漁業士会	構成員数 (うち参加者数)	92名 (本人・委任状 合計：72名)
事業の目的	漁業士の資質の向上		
実施時期、 場所、参加 者等	<p>【日 時】平成 29 年 6 月 3 日</p> <p>【場 所】盛岡グランドホテル（盛岡市）</p> <p>【参加者】岩手県漁業士会会員、関係漁協職員、関係行政職員等（本人・委任状含む 35 名）</p>		
活動内容 ( 結 果 )	<p>情報交換及び研修会を開催した</p> <p>1 各支部の活動報告</p> <p>2 講演（3 課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海況変動について</li> <li>・海況変動と漁業生産量の関係</li> <li>・海況変動と磯根資源</li> </ul> <p>3 情報提供</p> <p>アンケート調査結果報告「平成 28 年度漁業担い手の満足度調査結果」</p> <p>会場風景① <span style="float: right;">会場風景②</span></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>各支部活動報告①</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>各支部活動報告②</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>各支部活動報告③</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>各支部活動報告④</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>講演①</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講演②</p> </div> </div>		



講演③



情報提供



活動内容  
(結果)

## 5 平成 28 年度漁業復興担い手確保支援事業・事務事業実績

### ① 新規就業者(漁家子弟)確保支援事業実績

漁協名(一次受入機関)	研修生数	精算額
広田湾	1	200,559
越喜来	1	752,000
吉浜	2	1,068,999
釜石東部	1	940,000
新おおつち	2	2,630,851
三陸やまだ	3	1,880,000
重茂	5	4,230,000
宮古	5	3,666,000
小本浜	1	921,200
田野畑村	2	2,256,000
普代村	1	1,128,000
久慈市	2	1,504,000
合計	26	21,177,609

### ③新規就業者(未経験)確保

#### 支援事業実績

漁協名(一次受入機関)	研修生数	精算額
広田湾	2	2,682,236
綾里	3	3,507,500
越喜来	1	1,128,000
吉浜	2	3,172,311
唐丹町	1	208,521
釜石湾	1	1,507,602
新おおつち	4	4,316,824
三陸やまだ	1	1,929,366
田老町	2	2,316,495
野田村	2	1,303,795
久慈市	2	2,444,000
合計	20	24,516,650

## 5 (2) 資格等習得支援事業実績

漁協名	資格名	受講者数	事業費
広田湾	小型船舶操縦士	6	586,910
大船渡市	小型船舶操縦士	9	1,071,740
	フォークリフト	5	167,000
	小型移動式クレーン	5	157,415
	玉掛け	3	72,975
綾里	小型船舶操縦士	5	616,960
	小型移動式クレーン	4	123,220
岩手秋刀魚船団	海技士 6 級 (機関)	14	532,342
越喜来	小型船舶操縦士	1	110,480
	小型移動式クレーン	11	385,040
	玉掛け	16	406,500
吉浜	小型船舶操縦士	4	345,970
	フォークリフト	2	74,720
	玉掛け	1	27,100
	小型移動式クレーン	3	103,440
	大型自動車	1	297,000
釜石東部	大型自動車	3	729,000
三陸やまだ	小型船舶操縦士	1	115,990
	クレーン特別講習	11	113,135
宮古	小型船舶操縦士	2	82,500
田老町	小型船舶操縦士	1	106,600
小本浜	フォークリフト	1	30,780
	小型移動式クレーン	2	61,610
	玉掛け	2	44,330
	第二級海上特殊無線技士	1	38⑧80
久慈市	小型船舶操縦士	5	616,200
	フォークリフト	4	123,120
小子内浜	小型船舶操縦士	1	103,100
	大型特殊	1	56,160
	車両系建設機械	1	37,100
	フォークリフト	1	14,600
玉川浜	小型船舶操縦士	1	103,100
合計		128	7,455,017

## 6 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務規程

### 第1章 総則

(目的)

第1条 この業務規程は、公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金（以下「基金」という。）の業務の実施について基本的な事項を定め、もって業務の適正な運営を図るものとする。

(業務運営の基本的事項)

第2条 基金は、業務の公共的重要性にかんがみ、県、市町村、漁業団体等との密接な連携のもとに、その業務を効果的に運営するものとする。

### 第2章 業務の種類及び業務の内容等

(事業の種類)

第3条 基金が行う事業は、次に掲げる青年等漁業者の確保育成対策に関する事業とする。

- (1) 漁業担い手確保対策事業
- (2) 漁業担い手育成対策事業
- (3) 青年等漁業者組織活動支援事業
- (4) 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業
- (5) 特別対策事業

(事業の目的、内容及び事業対象者)

第4条 前条に規定する事業の内容及び対象者は、別に定める公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則（以下「業務細則」という。）に基づくものとする。ただし、前条の第1号から第3号の事業については、必要により基金においても実施できるものとする。

(助成の額)

第5条 第3条に規定する事業に対する助成額は、別に定める業務細則に基づくものとする。

(研修先及び研修期間等)

第6条 第3条に規定する事業の研修先及び研修期間等は、別に定める業務細則に基づくものとする。

### 第3章 事務手続き及び助成金の交付

第7条 第3条に規定する事業を実施し、助成金の交付を受けようとする者は、別に定める業務細則に基づく提出書類を期日までに代表理事に提出するものとする。

### 第4章 雑則

第8条 この業務規程の施行について必要な事項は、代表理事が別に定める。



附則

- 1 この規程は、平成 23 年 5 月 16 日から施行する。
- 2 財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務方法書（平成 5 年 3 月 16 日制定）は廃止する。
- 3 この規程において従前から引き継がれる事業の助成の額は、第 5 条の規定にかかわらず、施行後の最初の年度に限り従前の例によるものとする。

附則

この規程は、平成 23 年 10 月 31 日から施行する。（第 3 条第 1 項第 3 号の事業名称の変更）

附則

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。（公益法人移行に伴う名称等の変更）

## 7 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則

(趣 旨)

第 1 条 公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金（以下「基金」という。）の業務運営に関しては、公益財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務規程第 4 条、第 5 条、第 6 条及び第 7 条の規定により、次のとおり定めるものとする。

(業務の内容)

第 2 条 基金が行う助成対象事業の内容は別表 1 のとおりとし、助成額（助成率）及び助成の申請、請求、実績報告に伴う提出書類等並びに重要変更の内容は別表 2 のとおりとする。

2 事業対象である「青年等漁業者」とは、概ね 55 歳以下（ただし、女性の場合にあっては特に制限を設けない。）の漁業者及び漁業を志向する者とし、「青年漁業者」とは、45 歳以下とする。

3 対象事業は原則として一年度とする。ただし、別表 3 に掲げる事業については、その定めるところによる。

(助成金の申請)

第 3 条 助成金の交付を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、別表 2 の定めるところにより地区漁業担い手育成推進協議会（以下「地区協議会」という。）を経由し、原則として、事業を着手しようとする日の 30 日前までに代表理事に申請しなければならない。ただし、県段階の組織は地区協議会の経由を要しない（以下同じ。）。

(助成金の決定)

第 4 条 代表理事は、提出のあった申請の内容を審査し、その適否を決定し地区協議会を経由して申請者に通知するものとする。

2 代表理事は、助成事業の目的を達成するため、必要に応じ条件を付することができるものとする。

(変更承認申請書)

第 5 条 助成金の交付決定を受けた者（以下「助成事業者」という。）が、別表 2 に掲げる重要変更当該する事業変更を行おうとするときは、速やかにその定めるところにより事業変更承認申請書を、地区協議会を経由して代表理事に提出し承認を受けなければならない。

(事業の中止)

第 6 条 助成事業者が、事業の遂行ができなくなったとき又は中止するときは、助成事業中止届を、地区協議会を経由して代表理事に提出し指示を受けるものとする。

(助成金の請求及び実績報告書)

第 7 条 助成事業者は、事業を完了した日から 30 日以内に、助成金請求書に実績報告書を添付し、地区協議会を経由して代表理事に提出しなければならない。

(助成金の交付)

第 8 条 助成金の交付は、原則として事業完了後に行う。ただし、やむをえない事情がある場合には、助成金の一部又は全部を前金払いで受けることができる。

(交付決定の取消)

第 9 条 代表理事は、助成事業者が次の各号のいずれかに該当する場合には、助成金の交付決定の全部又は一部を取り消すことができる。

- (1) 前条の規定に違反したとき又は第 4 条第 2 項に規定する助成金の決定に際し付した条件に違反したとき
- (2) 助成金を他の用途に使用したとき
- (3) 偽り、その他不正な手段により助成金の交付を受けたとき
- (4) 業務規程等に違反したとき

(助成金の返還)

第 10 条 助成事業者は、第 9 条の規定により助成金の交付を取り消された場合において、取り消しに係る部分に関し、既に助成金が交付されているときには、それを返還しなければならない。

2 前項の規定は、第 5 条の規定による助成金の交付の決定を変更した場合についても準用する。

(書類等の整備)

第 11 条 助成金の交付を受けた者は、その証拠書類、帳簿等を整理し、事業完了の翌年から 5 年間保管しなければならない。

附則

- 1 この細則は、平成 23 年 5 月 16 日から施行する。
- 2 従前の財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則（平成 5 年 3 月 16 日制定）は廃止する。

附則

この細則は、平成 23 年 10 月 31 日から施行する。(別表 1,2,3 の助成額及び事業名称等の変更)

附則

この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。(公益法人移行に伴う名称等の変更)

細則 別表1(第2条関係) 事業の目的、内容及び事業対象者

事業区分	事業目的・内容等	事業対象者	事業の種類
1 漁業担い手確保対策事業			
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	<p>1 目的 地域の小中学生を対象とした漁業体験・学習等を支援し、漁業への理解と憧れを形成する。</p> <p>2 内容 漁業の体験及び学習等(水産物の加工含む。)に要する経費(材料費、保険料、移動経費等)の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年等漁業者が組織する団体</li> <li>・漁業協同組合</li> <li>・青少年育成組織</li> <li>・水産高校等</li> </ul>	助成事業
(2) 水産高校等連携育成事業	<p>1 目的 水産高校等と連携して生徒の漁業に関する実践的な技術の向上を目的に行う現場実習等を支援し、漁業に対する理解と関心を高める。</p> <p>2 内容 (1) 生徒の現場実習経費の助成 (2) 技術者の学校での実践的指導経費の助成 (3) 漁業・加工技術等の共同研究等経費の助成 (4) 小中学校との連携に要する経費の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域関係者で構成する連携組織又は水産高校等</li> </ul>	助成事業
(3) 漁業志向青年等体験学習事業	<p>1 目的 漁業就業を志向する青年等を対象とした漁業体験・学習等を支援し、漁業就業意識を高める。</p> <p>2 内容 (1) 漁業の体験、現地見学会の開催等経費の助成 (2) 漁業就業に関する知識習得研修に係る経費の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区協議会</li> <li>・漁業協同組合等</li> </ul>	助成事業
2 漁業担い手育成対策事業			
(1) 新規漁業就業者交流事業	<p>1 目的 新たに漁業に就業した青年等の漁業への取り組みを促進するため、情報交換等ネットワークづくりを進め、新規漁業就業者の早期定着化を図る。</p> <p>2 内容 新規漁業就業者(就業3年以内の者)の情報交換会を開催する経費の助成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区協議会</li> <li>・漁業協同組合等</li> </ul>	助成事業
(2) 新規漁業就業者技術研修事業	<p>1 目的 新規漁業就業者(就業3年以内の者)が養殖業等自立経営を目指して、地元先達漁家において起業に必要な基礎的知識・技術を修得する場合に、受入経営体及び実践研修生に対して支援することにより、自立経営への円滑な移行を促進する。</p> <p>2 内容 (1) 受入経営体 地域において養殖業及び採介藻漁業を営む計画を有する新規漁業就業者の指導に要する経費(6月以上1年以内で25日以上指導)の助成 (2) 実践研修生 研修期間(6月以上1年以内)内に小型船舶操縦士免許を取得するための受講に要する経費(講習受講料)ただし、漁家子弟の場合にあっては親元での漁業従事を研修と看做することができる。</p>	<p>(1) 受入経営体(実践研修生と3等親内の者除く)</p> <p>(2) 実践研修生 次の要件を全て満たしていること ア 40歳未満の者 イ 6月以上研修を行う者 ウ 営漁する計画を有する者 ただし、漁家子弟にあってはイ、ウの条件は満たしているものと看做す。</p>	助成事業
(3) OJT研修支援事業	<p>1 目的 青年漁業者の国内先進漁家、企業体、市場等での研修又は課題解決能力向上のためのOJT研修を促進し、優れた青年漁業者の育成と地域漁業の中核者としての活動促進を図る。</p> <p>2 内容 (1) 国内先進漁家等技術研修受講経費の助成(1月以内) (2) 新規漁業就業者OJT研修経費の助成(3月以内)</p>	<p>(1) 青年漁業者、新規漁業就業者</p> <p>(2) 次の要件を全て満たす者 ア 県内において継続して5年間漁業に就業した青年漁業者 イ 研修終了後においても漁業に従事すると見込まれる者 ウ 研修計画を有する者</p>	助成事業

細則 別表1(第2条関係) 事業の目的、内容及び事業対象者

事業区分	事業目的・内容等	事業対象者	事業の種類
3 青年等漁業者組織活動支援事業			
(1) 研究グループ等活動事業	<p>1 目的 漁業経営や漁家生活等の発展向上を図るため研究開発及び研究実践活動又は経営改善研修及び各種資格取得研修の開催・受講に取り組む漁業青年等グループの自主的活動を支援し、漁業青年等の創造性と研究実践意欲の高揚及び漁村地域の活性化を図る。</p> <p>2 内容 (1) 研究実践活動経費の助成 漁業生産技術の開発・導入試験、水産物の加工技術の開発研究、生産物の付加価値向上試験、漁業及び生活に関する研究実証、新産地育成・むらづくり活動等に要する経費(材料費等) (2) 研修活動経費の助成 漁業技術修得、経営改善、水産物加工技術修得、各種資格取得等の活動に要する経費(旅費、受講料、講師謝金、会場費等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年等漁業者3人以上で構成されかつ漁業又は漁家生活等の研究活動を推進する目的で組織されているグループ(以下「青年等グループ」という。)</li> </ul>	助成事業
(2) 青年等交流活動促進事業	<p>1 目的 グループ活動の活性化や青年等漁業者の資質向上を図るため地区又は全県範囲で開催する情報交換会や活動実績発表大会及び青年等グループの都市・漁村間交流等の活動を支援し、意欲ある担い手の育成と漁村地域の活性化を図る。</p> <p>2 内容 (1) 情報交換会の開催及び都市・漁村間等交流に要する経費の助成(会場費、講師謝金・旅費、材料費、交通費等) (2) 地区活動実績発表大会開催経費の助成(会場費、謝金・旅費、消耗品等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区又は全県範囲で主催する実施組織</li> <li>青年等グループ</li> </ul>	助成事業
(3) 地域リーダー研修事業	<p>1 目的 漁村地域リーダー相互の情報交換等を通じ地域リーダーとしての資質の向上を図るとともに、その自主的活動を促進する。</p> <p>2 内容 漁業生産、漁村、漁家生活等の環境づくり及び地域の担い手育成等漁村の活性化を推進するリーダーの育成を目的とした地区又は全県範囲の研修会等の開催に要する経費の助成(会場費、謝金・旅費、消耗品等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区又は全県範囲で主催する実施組織</li> </ul>	助成事業
4 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業			
(1) 地区協議会活動事業	<p>1 目的 漁業担い手対策を総合的に推進するため、大船渡、釜石、宮古、久慈の各地区に設置されている地区漁業担い手育成推進協議会に対し活動費等を交付し、地区の漁業担い手対策に資する。</p> <p>2 内容 地区協議会活動費の交付</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区協議会</li> </ul>	助成事業
5 特別対策事業			
(1) 特認事業	漁業後継者及び漁業担い手を確保、育成するために理事長が特に実施する必要があると認める事業。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区協議会等</li> </ul>	助成事業
(2) その他事業	基金が自ら実施する事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規漁業就業者等</li> </ul>	主催事業

細則 別表2 (第2条、第3条、第5条関係)

助成対象事業の助成額(助成率)及び助成の申請、請求、実績報告に伴う提出書類、重要変更の内容

事業名	助成額(助成率)	助成金申請		助成金請求		重要変更	
		助成金申請書 ・添付書類	様式	助成金請求書 ・添付書類	様式		
<b>1 漁業担い手確保対策事業</b>							
(1) 小中学生漁業体験・学習事業	1団体 5万円以内	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第1号 第2号 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第1号 第2号 任意	助成金額の20%を超える減	
(2) 水産高校等連携育成事業	1団体 100万円以内 【対象経費】 生徒指導に係る材料費、謝金、技術者派遣旅費、共同研究等・小中学校連携に係る材料費	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第3号 任意 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第3号 任意 任意	助成金額の20%を超える減	
(3) 漁業志向青年等体験学習事業	1事業 15万円以内	①交付申請書 ②実施計画書	第4号 第5号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第4号 第5号 任意	助成金額の20%を超える減	
<b>2 漁業担い手育成事業</b>							
(1) 新規漁業就業者交流事業	1事業 5万円以内	①交付申請書 ②実施計画書	第6号 第7号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第6号 第7号 任意	助成金額の20%を超える減	
(2) 新規漁業就業者技術研修事業	・受入経営体	1経営体 30万円以内/年額 (指導に要する経費)	①交付申請書 ②実施計画書 ③営漁プラン ④漁協推薦書	第8号 第9号 第10号 第11号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第8号 第9号 任意	助成金額の20%を超える減
	・実践研修生	10万円以内 (小型船舶操縦士免許講習受講経費)	①交付申請書	第12号	①交付請求書 ②実績報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第12号 任意	助成金額の20%を超える減
(3) OJT研修支援事業	・国内先進漁家等技術研修(1月以内)	1人 10万円以内 【対象経費】 研修機関等への納入額、交通費、教材費	①交付申請書 ②実施計画書 ③身上調書 ④漁協推薦書	第13号 第14号 第15号 第16号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第13号 第14号 任意	研修先の変更
	・新規漁業就業者OJT研修(3月以内)	1人 30万円以内 【対象経費】 研修指導者謝金、教材費	①交付申請書 ②実施計画書 ④身上調書 ⑤漁協推薦書	第17号 第18号 第15号 第16号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第17号 第18号 任意	助成金額の20%を超える減

細則 別表2 (第2条、第3条、第5条関係)

助成対象事業の助成額(助成率)及び助成の申請、請求、実績報告に伴う提出書類、重要変更の内容

事業名	助成額(助成率)	助成金申請		助成金請求		重要変更	
		助成金申請書 ・添付書類	様式	助成金請求書 ・添付書類	様式		
3 青年等漁業者組織活動支援事業							
(1) 研究グループ等活動事業	・研究実践活動	1課題 30万円以内	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第19号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第19号 第20号 任意	研究課題及び研修先の変更 助成金額の20%を超える減
	・研修活動	1グループ 20万円以内		任意			
	・資格取得活動	1グループ 20万円以内(1/2以内)		任意			
(2) 青年等交流活動促進事業	・情報交換、交流等活動	1事業 20万円以内	①交付申請書 ②実施計画書 ③事業主体規約(新規のみ)	第21号 第22号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第21号 第22号 任意	助成金額の20%を超える減
	・地区活動実績発表大会	1事業 10万円以内		任意			
(3) 地域リーダー研修事業		1事業 10万円以内	①交付申請書 ②実施計画書	第23号 第24号	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第23号 第24号 任意	助成金額の20%を超える減
4 地区漁業担い手対策推進協議会活動事業							
地区協議会活動事業	別途定める		①交付申請書 ②事業計画書(協議会の計画) ③規約	第25号 任意 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第25号 任意 任意	助成金額の20%を超える減
5 特別対策事業							
特認事業	別途定める		①交付申請書 ②実施計画書 ③規約	第26号 第27号 任意	①交付請求書 ②実績報告書 ③結果報告書 ④参考資料(領収書等)	第28号 第26号 第27号 任意	助成金額の20%を超える減

注:1 事業を複数年に渡って申請するに際し、その内容に変更がない場合は、翌年度以降の添付書類を省略することができる。

2 上記以外の手続きの様式は、次のとおり。

変更承認申請書 (第5条関係)	様式第 29 号
事業中止届 (第6条関係)	様式第 30 号
前金払い請求書 (第8条関係)	様式第 31 号
助成金交付決定通知書 (第4条関係)	様式第 32 号

細則 別表3(第2条関係) 事業実施期間

事業名	実施期間
2 漁業担い手育成事業	
新規漁業就業者技術研修事業	年度を跨ぐ場合は当年度と次年度
3 青年等漁業者組織活動支援事業	
研究グループ等活動事業	最長3年(1課題)